

東日本大震災復興プログラムとして、

横浜国大の宮脇昭教授が提唱する「緑の長城プロジェクト」を積極支持し、

「メガソーラー設置」も加えた「発電プロジェクト」を実現することを提案する。

以下、震災発生からの取り組みの記録と提唱に至る経過を、ユーラシアクラブニュースレター「ユーラシアンホットライン」の記事で紹介する。

2013年11月

NPOユーラシアンクラブ 理事長 江藤 セデカ

# ユーラシアンホットライン

## ● 衷心より被災地の復興を祈ります

巨大地震、津波、原発被害で亡くなられ、行方不明となった多くの方々に心より慰霊の気持ちを捧げます。また被災され不自由な暮らしを強いられている皆様が早期に元の暮らしに戻ることを祈ります。募金や物資援助、復興ボランティアの拡大など支援の輪を広げ、地震大国になじまない原発のない循環型エネルギー戦略導入を訴えていきます。

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ 理事長・支部長 大野遼

## ◎ 夏にチャリティコンサート、秋以降に慰問音楽キャラバンを構想

大野遼

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライの総会を終えた翌日 8 日深夜、国道 4 号線から 6 号線へと原付バイクを走らせて 12 時間、愛川町から東日本巨大地震と津波、福島原発の放射能汚染という三重被害に向かい合う福島県南相馬市を訪れた。この一ヶ月、「私になにができるか」と考えてきたことを実行するためであった。

テレビを通して刻々と映し出される押し寄せる津波。避難する人々。一瞬の差で助かった人。乗用車に乗ったまま流されて行方不明になった多くの方。海上流出家屋の屋根に掴まっていて奇跡的に助かった男性。また倒壊した家屋の隙間で耐え忍んで 9 日ぶりに救出された祖母と高校生がいる一方で、一瞬の間に手が離れ海に消えた孫への悔恨に打ちひしがれるおばあさんの姿。そして何よりも、広瀬隆氏が指摘した「原発震災」(『原子炉時限爆弾～大地震におびえる日本列島』/2010 年 8 月/ダイヤモンド社刊)の発生で、日本だけでなく世界が放射線被害の拡大を心配する事態に発展した。

東日本大震災の被害状況は、12 都道県で 1 万 2 9 8 5 人、行方不明者は 1 万 4 8 0 9 人で、計 2 万 7 7 9 4 人になった。負傷者は 4 6 4 6 人 (4 月 1 0 日午前 1 0 時現在、警察庁まとめ)。津波で家を失ったり、被災した人々だけでなく、原発漏れ放射線被災 20 キロ圏からの避難者を含め、1 都 1 6 県の避難所約 2 0 0 0 か所です約 1 7 万人、それ以外の避難者を含め 24 万人以上が自宅以外での不自由な暮らしを強いられている。

インターネットやテレビで連日刻々と伝えられる被災地の現状に、メディアが対応し、日本国内だけでなく世界中から被災地救援、災害復興、原発災害阻止のための活動が続けられ、被災地の自宅を離れがたく不便な暮らしを選んだ人や体の不自由な方など、弱者への支援もようやく視野に入った援助、自治体から NPO 団体、最近では著名人による募金やチャリティの動きが活発だ。

私は、3 月 11 日の地震の 3 日後、予定していたユーラシアンクラブの新春交歓会を中止にする一方、なにができるか、何が必要かと考えてきた。その結果、日本人の琴線に触れる演奏を通してアジアの理解を図ってきた、アジア・シルクロードの音楽を被災地に届ける活動を考えることにした。

私が一緒に活動するアジアや日本の音楽家とともに、お金や物資ではなく、クオリティの高い音楽を届け被災者に喜んでもらおうという企画である。音楽家の協力が得られなければ実現しないのはもちろんであるが、日時、場所、被災地の状況、どんな考え方が可能かなど、受け入れ側の条件もよくよく考慮しないと進め難い。

私はこれまで、宮城県、福島県で、アジア・シルクロード音楽フェスティバルを開催した経験があるが、今回考えているのは、被災者を癒し元気につなげようという慰問の無料コンサートであり、このための音楽家の搬送のための車両や燃料、食費、宿泊費用を事前に確保する努力も必要になる。3 月 11 日をもって一変した被災地の現実と 3 万人に及ぶとみられる亡くなられた方、行方不明者への慰霊の気持ち、津波で一瞬に喪失した自宅、工場、一切の上屋施設、穏やかな暮らしを失った人々の暮らしの再建や災害地や海での遺体捜索を含めた災害復旧の現状を考えると、いまだ時期にあらずと考えている。

今回の被災地訪問は、この企画実施には、テレビの映像だけでなく、現地を訪問し、被災地の現状の一端を把握し、積極的な事業によって地域の文化芸術振興に取り組む福島、宮城の文化会館関係者と意見を交換することが必須と判断したためだ。

● 南相馬市は、市民の七割が他府県等へ避難、ゴーストタウン化から「消滅」へ

神奈川県愛川町の自宅を 8 日午後 6 時に出て福島県南相馬市に到着したのは翌日の午前 6 時。電話で聞いていたとおり訪問先の市役所の前の文化会館には、会館で寝泊りする航空自衛隊のジープ二台が会館正面に駐車。雨混じりの市外の朝は、人も車も殆どなく、町並みは見た目平常と変わらない印象。地震と津波、原発の三重の被害を受けたようには感じられなかった。しかし数歩歩んでそれは誤りだと気付いた。中央商店会の店々のガラスには軒並み「当分の間休業とさせていただきます」の白地に黒の貼紙が貼られていた。ガラス越しに見える店内は昨日の「6 強」の余震の痕跡。瓦屋根が大量に落下していたり、植木が散乱。旧家の土蔵の壁が落下、骨組みの竹がむき出し。訪れた文化会館のエントランスから 2 階のホワイエにあがる階段には縦に亀裂が入り、聞くとバ

トン落下や客席照明、スプリンクラーの故障など影響が出たという。

南相馬市役所のある原ノ町駅には運休した列車が停車。ホテルは休業状態に見え駅前には閑散。朝 7 時だというのに、やっと営業再開したばかりのコンビニに多くの人の姿があり、主婦に混じって年配の男性が多く、届いたばかりの新聞を買い求めている。

市役所玄関を入ると、ロビーに被害、避難所情報が貼り出され、ボランティア受付窓口には被災証明やボランティア受付など職員と市民のやり取りが絶えず、グループで活動するボランティア参加者が出入りしたり。「名前があったら困るんだけど」と言いながら被害者名簿を指差しながら、連絡の取れない友の名前を探す女子高生 2 人の姿もあった。

常磐線の踏切を渡ると愕然とした。津波は、海岸から 2-3 キロにあった家屋、工場など一切を押し倒し、高台を乗り越え常磐線と並行して走る 6 号線のすぐそばまできており、目の前に広がる瓦礫と化した光景は言葉にならず、人事を超えた自然の営みにただ呆然とするばかり。他府県からの復興派遣車両や消防団、自衛隊が各所で、津波に押し流され積み上げられた散乱するソファなどの家財道具、建築資材、車、耕運機などの撤去に取り組んでいたが、まさに点のような作業で復活には何十年もかかると思われた。

会館の企画担当職員の話では、ホール事業は無期限中止の状態ではば年内は閉館状態の見込み。南相馬市は人口 7 万 2 千人だが、福島原発から 30 キロ圏内に位置し、20 キロ圏内の南部地域への避難勧告対象者や、被災者を含め、市民の約 7 割にあたる 5 万人近くの市民が他府県



へ避難。残っている市民は 2 万人から 2 万 5 千人とみられゴーストタウン化しており、千葉、茨城、福島、宮城の各県の太平洋側を經由して上野一仙台間をつなぐ常磐線も一部区間運行のみで、南相馬市は孤立している。ホール事業企画責任者も自宅が津波に遭い、市外の親戚に避難。電車もストップしているため通うこともできず無期限特別休暇状態。南相馬市は「屋内退避」が地震から一ヵ月後の 9 日「計画的退避地域」に指定された。南相馬市は、福島原発の事故によってゴーストタウンからさらに進み町一つ消失と云ってよい事態におかれる事になった。

現在福島県内の文化会館はほとんど事業中止の状態、県立文化センターでは客席の天井が落下した等会館そのものが使用できなくなったところも多く、秋以降、演奏の場所、実施方法は相当考慮が必要になった。

私は、作曲家でもあるクオリティの高い仲間の演奏者と再度被災地を訪ねた上で、言葉にならない被災地の現状や復興への希望、アジアからのメッセージを込めた曲づくりを依頼し、愛川町や日本橋での夏のチャリティコンサートで発表し、秋以降、被災地の福島、宮城のホール事業企画担当者と連携した被災地や避難先での慰問音楽キャラバンを実施したいと考えている。今回、宮城、福島の事業関係者 4 人と事業の展望について意見を交換してきたが、避難所での演奏は慎重に考え、「屋内避難」で、コンサート会場に足を運べないお宅や体の不自由な方など、演奏への希望や条件を把握しながら、現地のホール職員を通した計画を立てたい。皆様のご理解、ご支援を心より願います。

## ● 地震大国がなぜ原発大国なのか

### 次は相模湾・駿河湾直下型地震警戒の声も

3 月 19 日に予定されていたユーラシアンクラブの新春交歓会は、岩手県及び茨城県沖で発生した巨大地震や津波による甚大な被害で多くの犠牲者が出ていることや、比較的被害の少なかった地域においても、家族や友人、知人に連絡が取れない人がいたり、公共交通も混乱し、生活や産業活動に多くの影響が及び、正常化には相当の時間がかかることが想定されたことから中止した。

ユーラシアンクラブの友人たちからは早速お見舞いメールが届いた。地震から一週間の間に、北はロシア連邦サハ共和国、キルギス共和国、中華人民共和国新疆ウイグル自治区、ウズベキスタン共和国、マレーシア連邦、カナダ、アメリカ在住の友人が、日本語、ロシア語、英語で哀悼の気持ちを届けてくださった。中には、遠方ながら、希望があるなら 3 人ほどは受け入れるとのうれしい申し出や 5000 ドルの寄付金を被災地に届けたいとの声も届きました。

マントルの上に浮かんだプレートという名の大地の継ぎ目が日本列島。3 月 11 日午後、岩手県沖、茨城県沖で発生した巨大地震で多くの人が亡くなり、行方不明者も含めると 2 万人を超える人が犠牲となり、数十万人の人が家を失うなど被災したが、その後の「原発」事故がさらに犠牲を増やし、恐怖となっている。

ユーラシアンクラブでも、役員が経営する会社も液状化現象や水漏れ、店内の破損などの被害を受け、また地震や「原発」事故を原因とした計画停電による公共交通の運休で都内への足が奪われ、家族や知人の消息が途絶えた仲間も生まれた。築百年の日本家屋である我が家は、幸い被害は無かったが、前後左右に円を描くように揺れ続け、海岸から内陸数キロに渡って押し寄せた津波は、日本列島がプレートという地球を覆う「外皮」である地殻のバランスの上に浮かんだ浮遊物であることを思い知らされた。

地震による津波被害は、関東から東北にかけての太平洋側の沿岸沿いに幅数キロ、数百キロにわたって瓦礫と化し、被災者の暮らしの再建には長い時間がかかる。被災者の救済に政治の力が必要だが、全くリーダーシップが見えない。何よりも「原発」事故に対して事故処理も不透明で、政策的議論もない。今も震度 6 を上回る余震が続く。事故の危険度は最高のレベル 7 に上がり、事故後一ヶ月も経って炉心融解を示すストロンチウムが発表

された。チェルノブイリを超える汚染も予測されている。この列島に「原発」があつていいのか。今後予想される被災者、漁業、農業関係者への補償、町や村そして南相馬市のような 7 万人以上の町が一つ消滅しそうな状況下で、地震大国を原発大国にした「原発」推進者はどう責任をとるのか。我慢を続けている被災者に対して、国は、政治は、その役割を果たせるのか。事故や被害を直視しない姿勢に大きな疑問符(?)を呈せざるを得ない。

今回の地震で、「安全神話」は完全に崩壊した。私は、原発を廃止して、地下資源型エネルギー（石油、石炭、天然ガス、ウラン）に頼らない、循環型自然エネルギー開発戦略を一層精力的に取り組むことが必要だと思う。事故処理の費用の一環で挑戦するべきだ。それが日本やアジアの諸民族に喜ばれ、民族の共生に役立つ、人類最後のエネルギー革命につながる。

それにしてもテレビで止むことのない「危険が大丈夫」「タバコを吸うより安全」といった類の垂れ流し情報にはあきれられるばかり。ネット上に「日刊ゲンダイ」掲載記事が紹介されていたので以下転載する。

### だから東大教授はTVで「安全」を強調するのか

#### ●東電から大学院に6億円の寄付

原発事故が起きてから、原子力関係の東大教授がやたらとテレビに出るようになった。たいていは現状を追認して「心配ありません」と言うだけなのだが、これには理由がある。東大と東電はズブズブの関係なのだ。

まずは別表を見て欲しい。東大の「寄付講座・寄付研究部門設置調」という資料から、東電が出資している寄付講座を抜粋した。寄付講座とは、企業からの寄付で研究活動を行う研究室のようなもの。他社との共同のものもあるが、東電の寄付金の額を全部足すと、6億100万円に上る。ほとんどが大学院工学系研究科の講座だ。NHKによく登場する東大大学院の関村直人教授が所属しているのが工学系研究科である。東電からもらったカネで研究している学者が、東電に不利なことを言えるわけがないのだ。

東大の工学系の准教授が、匿名を条件にこう明かす。

「寄付講座は、当然、寄付者の意図をくんだ研究内容が多くなる。東電に限らず、大学の理系部門には電力会社による寄付講座がゴマンとあります。研究費がなければ、やりたいこともできないし、原子力関係は特にカネがかかる。だから、電力会社に研究資金を出してもらえば原発推進派でないと偉くなれないのが現実です。第一、原発がなくなれば、自分たちの食いぶちがなくなってしまうのだから、必死で安全性をアピールするのです」

#### ●「関村教授、班日委員長、岡本教授…

まさに産学一体で、原発事業を推し進めてきたわけだ。

東電のカネで研究してきた東大教授は、自分の意をくんだ院生を助手にして後を継がせたり、息のかかった学生を東電や、東芝・日立などのプラントメーカーに送り込んできたという。

「関村教授と同様にNHKに頻繁に出演する東大の岡本孝司教授も、『大丈夫です』しか言いませんが、彼は原子力安全委員会の班日春樹委員長が東大工学部教授だった時の教え子です。班目さんは原

発推進派の頭目みたいな人ですから、岡本教授が安心を強調するのは当然のこと。みのもんたの『朝ズバッ!』に出ている東大特任教授の諸葛宗男氏も、東電の寄付講座のおかげで、東芝の技術顧問から東大教授に転身したといわれている人ですから、批判なんてできるワケがありません」(前出の准教授)

諸葛氏が「朝ズバッ!」で「こないだの雨で放射能が洗い流されて綺麗になった」とか「1960年代には世界中で核実験が行われていたから、今よりも大気中にはもっと大量の放射性物質があふれ返っていた」とか牽強付会な自説を披露するのには、そういう背景があるのか。

中部大学の武田邦彦教授が、ブログでこう暴露して話題になっている。

(テレビで「福島市の毎時20マイクロシーベルトはレントゲンの30分の1だから心配ない」と発言した当の東大教授が、自分の大学では「換気扇を止めろ」と指示した)

東京の放射線量は、福島の200分の1に過ぎないのに、外気が研究室に入ってくることを嫌がる東大教授——。「東大の先生が安心というなら…」と信じてしまう善良な庶民はバカを見ることになる。

- ◇寄付講座・寄付研究部門名称/設置期間/寄付総額/寄付者
- ◆建築環境エネルギー計画学(東京電力)/H21~23/4000万円/東京電力
- ◆都市持続再生学/H19~24/1億5600万円/東京電力を含む14社
- ◆ユビキタスパワーネットワーク寄付講座/H20~25/1億5000万円/東電・JR東日本・東芝
- ◆核燃料サイクル社会工学/H20~25/1億5000万円/東京電力
- ◆低炭素社会実現のためのエネルギー工学(東京電力)寄付研究ユニット/H22~25/1億500万円/東京電力

「日刊ゲンダイ」(2011年4月7日掲載)

### ユーラシアンクラブの仲間からお見舞いのメール(一部)

Dear Ohno-san,  
My deep condolence to you and my Japanese friends due to tremendous earthquake and tsunami. I am more than believe that Japan people gets more stronger and more united to stand in this difficult time for Japan.  
Very respectfully,  
Victoria, British Columbia Canada

Oono-san,  
The best regards to you from your friends from Yakutia. We have heard about severe earth-brake in Japan. I hope that everything with you and your family is good. If you need something to help please let us know.  
Sincerely,



ono san konnichiwa o genkide irashshaymasuka.  
 kochirade nihonno touhoku de okita taihenna jishin  
 saigaino nius o mimashte totemo kanashiku  
 naremashta taihendesune,  
 fukushima kenni onosan to itta kotoga arimashte  
 sono tokino yousu o kangaete taihen suraku  
 naremashta  
 minasan no go shinzoku youjinno minasanha  
 dayjilyoubu deshyouka.  
 ma nanimu iu koto nai taihenna saigai desune.  
 ma konnan o kachi nuku shika naidesune.  
 mata genkide o ai suru koto o inotteimasu.

У в а ж а е м ы й О но-сан,  
 Я глубоко потрясен известиями из Японии о сильно  
 м землетрясении и последовавшим за  
 ним цунами, которые унесли человеческие  
 жизни и привели к разрушениям. Я  
 выражаю глубокие соболезнования японском  
 у народу, а также семьям погибших и  
 пострадавших в это трудное время.  
 С уважением,

My dear friends  
 My family glued to TV set watching horrific  
 earthquake with great distress.  
 We cannot even begin to imagine the pain and  
 suffering of those families who lost loved ones going  
 though. Our heart and prayer go out to all of you at this  
 very difficult time.  
 Now I am residing in Houston, Texas, USA with my  
 family.  
 We hope that your life back to normal soon!

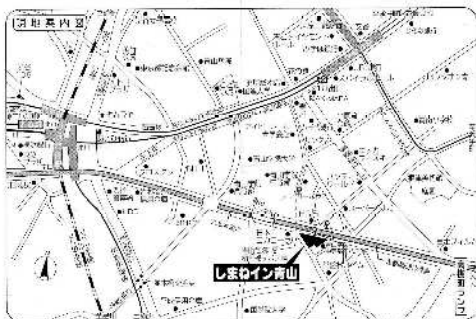
Ono san,  
 O genki desuka?  
 Watashi ha Malayshyano Kuantan to iu bashou ni  
 imashta.  
 Asoko de Nihonde no jishino koto kikimashita.  
 Kino Kuala Lumpurni modorimashita.  
 Kono yona taihenno jishin hontoini zannendesu,  
 Nihon ha ouzena giseishya wo ukemashita.  
 Watashiwa anata to anatano kazoku ha subetega  
 umakute iru koto wo onegatte imasu.

【オクサス学会からお知らせ】(再掲)

E・V・ルトヴェラゼ著/加藤九祚訳  
 『中央アジアの文明・国家・文化——シルクロード学序説』平凡社刊  
 出版記念講演会(主催・オクサス学会)



しまねイン青山案内図 〒107-0062 東京都港区南青山7丁目1番5  
 ☎03-3797-3399 (代)



表参道駅 徒歩9分 (B1出口)  
 バス便のご案内 (渋谷駅東口より徒歩7分(久利用))  
 都営バス 有楽町線「青山1丁目」駅より徒歩1分  
 都営バス 三軒茶屋駅「青山1丁目」駅より徒歩1分  
 都営バス 三軒茶屋駅「青山1丁目」駅より徒歩1分

アレクサンドロス大王の率いる騎馬隊の轡(くつわ)の轟きを聞いたことがありますか。玄奘法師の足音に耳を澄ましたことがありますか。中央アジアの大地と大河に人びとが送り届けたざわめきに耳をそば立て、おぼろな記憶の糸をたぐり続けた一人の穏やかだが強靱な知性が、最新の考古学的成果を携えて舞台上に登場する。みんなで共にこの舞台を盛り上げたいと思います。

ウズベキスタンからルトヴェラゼ教授(アカデミー会員)を迎えて中央アジアの文明を深く自在に語る会を下記のとおり開催致します。一人でも多くの方をお誘いのうえご参加下さるようお願い致します。

# ユーラシアンホットライン

89 歳の偉業！国際シルクロード学の礎 大著『『考古学が語るシルクロード史 中央アジアの文明・国家・文化』』翻訳刊行 加藤九祚記念碑的著作『天の蛇』（大仏次郎賞）も増補完本復刊！

5 月 15 日 重病の著者ルトヴィラゼ氏に代わって、大著を紹介する加藤九祚先生の記念講演。シルクロード学を目指す研究者、シルクロードファン必携の著作販売。記念祝賀会を開催。

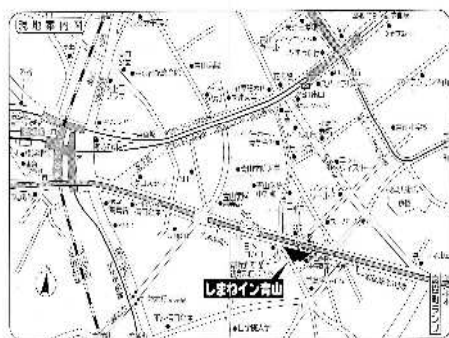
E・V・ルトヴェラゼ著 / 加藤九祚訳(平凡社刊)

『考古学が語るシルクロード史 中央アジアの文明・国家・文化』

出版記念講演会 (主催・オクス学会)



しまねイン青山案内図 〒10002 東京都港区南青山7丁目1番5  
☎03-3797-3399 (代)



表参道駅 徒歩9分 (B1出口) 〇バス便のご案内 (表参道駅より徒歩1分) 〇0155線 〇0156線 〇0157線 〇0158線 〇0159線 〇0160線 〇0161線 〇0162線 〇0163線 〇0164線 〇0165線 〇0166線 〇0167線 〇0168線 〇0169線 〇0170線 〇0171線 〇0172線 〇0173線 〇0174線 〇0175線 〇0176線 〇0177線 〇0178線 〇0179線 〇0180線 〇0181線 〇0182線 〇0183線 〇0184線 〇0185線 〇0186線 〇0187線 〇0188線 〇0189線 〇0190線 〇0191線 〇0192線 〇0193線 〇0194線 〇0195線 〇0196線 〇0197線 〇0198線 〇0199線 〇0200線 〇0201線 〇0202線 〇0203線 〇0204線 〇0205線 〇0206線 〇0207線 〇0208線 〇0209線 〇0210線 〇0211線 〇0212線 〇0213線 〇0214線 〇0215線 〇0216線 〇0217線 〇0218線 〇0219線 〇0220線 〇0221線 〇0222線 〇0223線 〇0224線 〇0225線 〇0226線 〇0227線 〇0228線 〇0229線 〇0230線 〇0231線 〇0232線 〇0233線 〇0234線 〇0235線 〇0236線 〇0237線 〇0238線 〇0239線 〇0240線 〇0241線 〇0242線 〇0243線 〇0244線 〇0245線 〇0246線 〇0247線 〇0248線 〇0249線 〇0250線 〇0251線 〇0252線 〇0253線 〇0254線 〇0255線 〇0256線 〇0257線 〇0258線 〇0259線 〇0260線 〇0261線 〇0262線 〇0263線 〇0264線 〇0265線 〇0266線 〇0267線 〇0268線 〇0269線 〇0270線 〇0271線 〇0272線 〇0273線 〇0274線 〇0275線 〇0276線 〇0277線 〇0278線 〇0279線 〇0280線 〇0281線 〇0282線 〇0283線 〇0284線 〇0285線 〇0286線 〇0287線 〇0288線 〇0289線 〇0290線 〇0291線 〇0292線 〇0293線 〇0294線 〇0295線 〇0296線 〇0297線 〇0298線 〇0299線 〇0300線 〇0301線 〇0302線 〇0303線 〇0304線 〇0305線 〇0306線 〇0307線 〇0308線 〇0309線 〇0310線 〇0311線 〇0312線 〇0313線 〇0314線 〇0315線 〇0316線 〇0317線 〇0318線 〇0319線 〇0320線 〇0321線 〇0322線 〇0323線 〇0324線 〇0325線 〇0326線 〇0327線 〇0328線 〇0329線 〇0330線 〇0331線 〇0332線 〇0333線 〇0334線 〇0335線 〇0336線 〇0337線 〇0338線 〇0339線 〇0340線 〇0341線 〇0342線 〇0343線 〇0344線 〇0345線 〇0346線 〇0347線 〇0348線 〇0349線 〇0350線 〇0351線 〇0352線 〇0353線 〇0354線 〇0355線 〇0356線 〇0357線 〇0358線 〇0359線 〇0360線 〇0361線 〇0362線 〇0363線 〇0364線 〇0365線 〇0366線 〇0367線 〇0368線 〇0369線 〇0370線 〇0371線 〇0372線 〇0373線 〇0374線 〇0375線 〇0376線 〇0377線 〇0378線 〇0379線 〇0380線 〇0381線 〇0382線 〇0383線 〇0384線 〇0385線 〇0386線 〇0387線 〇0388線 〇0389線 〇0390線 〇0391線 〇0392線 〇0393線 〇0394線 〇0395線 〇0396線 〇0397線 〇0398線 〇0399線 〇0400線 〇0401線 〇0402線 〇0403線 〇0404線 〇0405線 〇0406線 〇0407線 〇0408線 〇0409線 〇0410線 〇0411線 〇0412線 〇0413線 〇0414線 〇0415線 〇0416線 〇0417線 〇0418線 〇0419線 〇0420線 〇0421線 〇0422線 〇0423線 〇0424線 〇0425線 〇0426線 〇0427線 〇0428線 〇0429線 〇0430線 〇0431線 〇0432線 〇0433線 〇0434線 〇0435線 〇0436線 〇0437線 〇0438線 〇0439線 〇0440線 〇0441線 〇0442線 〇0443線 〇0444線 〇0445線 〇0446線 〇0447線 〇0448線 〇0449線 〇0450線 〇0451線 〇0452線 〇0453線 〇0454線 〇0455線 〇0456線 〇0457線 〇0458線 〇0459線 〇0460線 〇0461線 〇0462線 〇0463線 〇0464線 〇0465線 〇0466線 〇0467線 〇0468線 〇0469線 〇0470線 〇0471線 〇0472線 〇0473線 〇0474線 〇0475線 〇0476線 〇0477線 〇0478線 〇0479線 〇0480線 〇0481線 〇0482線 〇0483線 〇0484線 〇0485線 〇0486線 〇0487線 〇0488線 〇0489線 〇0490線 〇0491線 〇0492線 〇0493線 〇0494線 〇0495線 〇0496線 〇0497線 〇0498線 〇0499線 〇0500線 〇0501線 〇0502線 〇0503線 〇0504線 〇0505線 〇0506線 〇0507線 〇0508線 〇0509線 〇0510線 〇0511線 〇0512線 〇0513線 〇0514線 〇0515線 〇0516線 〇0517線 〇0518線 〇0519線 〇0520線 〇0521線 〇0522線 〇0523線 〇0524線 〇0525線 〇0526線 〇0527線 〇0528線 〇0529線 〇0530線 〇0531線 〇0532線 〇0533線 〇0534線 〇0535線 〇0536線 〇0537線 〇0538線 〇0539線 〇0540線 〇0541線 〇0542線 〇0543線 〇0544線 〇0545線 〇0546線 〇0547線 〇0548線 〇0549線 〇0550線 〇0551線 〇0552線 〇0553線 〇0554線 〇0555線 〇0556線 〇0557線 〇0558線 〇0559線 〇0560線 〇0561線 〇0562線 〇0563線 〇0564線 〇0565線 〇0566線 〇0567線 〇0568線 〇0569線 〇0570線 〇0571線 〇0572線 〇0573線 〇0574線 〇0575線 〇0576線 〇0577線 〇0578線 〇0579線 〇0580線 〇0581線 〇0582線 〇0583線 〇0584線 〇0585線 〇0586線 〇0587線 〇0588線 〇0589線 〇0590線 〇0591線 〇0592線 〇0593線 〇0594線 〇0595線 〇0596線 〇0597線 〇0598線 〇0599線 〇0600線 〇0601線 〇0602線 〇0603線 〇0604線 〇0605線 〇0606線 〇0607線 〇0608線 〇0609線 〇0610線 〇0611線 〇0612線 〇0613線 〇0614線 〇0615線 〇0616線 〇0617線 〇0618線 〇0619線 〇0620線 〇0621線 〇0622線 〇0623線 〇0624線 〇0625線 〇0626線 〇0627線 〇0628線 〇0629線 〇0630線 〇0631線 〇0632線 〇0633線 〇0634線 〇0635線 〇0636線 〇0637線 〇0638線 〇0639線 〇0640線 〇0641線 〇0642線 〇0643線 〇0644線 〇0645線 〇0646線 〇0647線 〇0648線 〇0649線 〇0650線 〇0651線 〇0652線 〇0653線 〇0654線 〇0655線 〇0656線 〇0657線 〇0658線 〇0659線 〇0660線 〇0661線 〇0662線 〇0663線 〇0664線 〇0665線 〇0666線 〇0667線 〇0668線 〇0669線 〇0670線 〇0671線 〇0672線 〇0673線 〇0674線 〇0675線 〇0676線 〇0677線 〇0678線 〇0679線 〇0680線 〇0681線 〇0682線 〇0683線 〇0684線 〇0685線 〇0686線 〇0687線 〇0688線 〇0689線 〇0690線 〇0691線 〇0692線 〇0693線 〇0694線 〇0695線 〇0696線 〇0697線 〇0698線 〇0699線 〇0700線 〇0701線 〇0702線 〇0703線 〇0704線 〇0705線 〇0706線 〇0707線 〇0708線 〇0709線 〇0710線 〇0711線 〇0712線 〇0713線 〇0714線 〇0715線 〇0716線 〇0717線 〇0718線 〇0719線 〇0720線 〇0721線 〇0722線 〇0723線 〇0724線 〇0725線 〇0726線 〇0727線 〇0728線 〇0729線 〇0730線 〇0731線 〇0732線 〇0733線 〇0734線 〇0735線 〇0736線 〇0737線 〇0738線 〇0739線 〇0740線 〇0741線 〇0742線 〇0743線 〇0744線 〇0745線 〇0746線 〇0747線 〇0748線 〇0749線 〇0750線 〇0751線 〇0752線 〇0753線 〇0754線 〇0755線 〇0756線 〇0757線 〇0758線 〇0759線 〇0760線 〇0761線 〇0762線 〇0763線 〇0764線 〇0765線 〇0766線 〇0767線 〇0768線 〇0769線 〇0770線 〇0771線 〇0772線 〇0773線 〇0774線 〇0775線 〇0776線 〇0777線 〇0778線 〇0779線 〇0780線 〇0781線 〇0782線 〇0783線 〇0784線 〇0785線 〇0786線 〇0787線 〇0788線 〇0789線 〇0790線 〇0791線 〇0792線 〇0793線 〇0794線 〇0795線 〇0796線 〇0797線 〇0798線 〇0799線 〇0800線 〇0801線 〇0802線 〇0803線 〇0804線 〇0805線 〇0806線 〇0807線 〇0808線 〇0809線 〇0810線 〇0811線 〇0812線 〇0813線 〇0814線 〇0815線 〇0816線 〇0817線 〇0818線 〇0819線 〇0820線 〇0821線 〇0822線 〇0823線 〇0824線 〇0825線 〇0826線 〇0827線 〇0828線 〇0829線 〇0830線 〇0831線 〇0832線 〇0833線 〇0834線 〇0835線 〇0836線 〇0837線 〇0838線 〇0839線 〇0840線 〇0841線 〇0842線 〇0843線 〇0844線 〇0845線 〇0846線 〇0847線 〇0848線 〇0849線 〇0850線 〇0851線 〇0852線 〇0853線 〇0854線 〇0855線 〇0856線 〇0857線 〇0858線 〇0859線 〇0860線 〇0861線 〇0862線 〇0863線 〇0864線 〇0865線 〇0866線 〇0867線 〇0868線 〇0869線 〇0870線 〇0871線 〇0872線 〇0873線 〇0874線 〇0875線 〇0876線 〇0877線 〇0878線 〇0879線 〇0880線 〇0881線 〇0882線 〇0883線 〇0884線 〇0885線 〇0886線 〇0887線 〇0888線 〇0889線 〇0890線 〇0891線 〇0892線 〇0893線 〇0894線 〇0895線 〇0896線 〇0897線 〇0898線 〇0899線 〇0900線 〇0901線 〇0902線 〇0903線 〇0904線 〇0905線 〇0906線 〇0907線 〇0908線 〇0909線 〇0910線 〇0911線 〇0912線 〇0913線 〇0914線 〇0915線 〇0916線 〇0917線 〇0918線 〇0919線 〇0920線 〇0921線 〇0922線 〇0923線 〇0924線 〇0925線 〇0926線 〇0927線 〇0928線 〇0929線 〇0930線 〇0931線 〇0932線 〇0933線 〇0934線 〇0935線 〇0936線 〇0937線 〇0938線 〇0939線 〇0940線 〇0941線 〇0942線 〇0943線 〇0944線 〇0945線 〇0946線 〇0947線 〇0948線 〇0949線 〇0950線 〇0951線 〇0952線 〇0953線 〇0954線 〇0955線 〇0956線 〇0957線 〇0958線 〇0959線 〇0960線 〇0961線 〇0962線 〇0963線 〇0964線 〇0965線 〇0966線 〇0967線 〇0968線 〇0969線 〇0970線 〇0971線 〇0972線 〇0973線 〇0974線 〇0975線 〇0976線 〇0977線 〇0978線 〇0979線 〇0980線 〇0981線 〇0982線 〇0983線 〇0984線 〇0985線 〇0986線 〇0987線 〇0988線 〇0989線 〇0990線 〇0991線 〇0992線 〇0993線 〇0994線 〇0995線 〇0996線 〇0997線 〇0998線 〇0999線 〇1000線

アレクサンドロス大王の率いる騎馬隊の轡(くつわ)の轟きを聞いたことがありますか。玄奘法師の足音に耳を澄ましたことがありますか。中央アジアの大地と大河に人びとが送り届けたざわめきに耳をそば立て、おぼろな記憶の糸をたぐり続けた一人の穏やかだが強靭な知性が、最新の考古学的成果を一冊の書物という装いで舞台上に登場いたします。みんなで共にこの舞台を盛り上げ、中央アジアの文明を深く自在に語る会を次のとおり開催したいと思います。

一人でも多くの方をお誘いのうえご参加下さるようお願い致します。

とき 2011年5月15日(日) 1:30 開場 2:30 講演開始  
ところ しまねイン青山(東京都港区南青山 7-1-5 電話: 03-3797-3399) 地図参照 \*駐車場はありません。

内容 記念講演 2:30~3:10  
講師: 加藤九祚  
「シルクロード考古学の新研究・マルグシュ(古代メルヴの遺跡)」  
中央アジアの文明を深く自在に語る会 3:10~4:30  
出演者: 多数  
出版記念会 5:00~7:00

会費 9,000 円(上記新著を加藤九祚氏のサイン入りで進呈)  
ご夫妻の場合: 本は 1 冊、  
お 1 人様は本代を差し引きます。  
資格 オクス学会の会員でなくてもご参加いただけます。  
ご友人をお誘いください。

お申込 オクス学会へ、メールで(oxus@s09.itscom.net)。  
古曳正夫へ、メールで(kovik@mbe.nifty.com)、電話(048-866-1613)で。

前田耕作へ、メールで(isca-maeda@m2.dion.ne.jp)、電話(0468-66-2608)で。

\*参加者が複数の場合: 全員のお名前をお書きください。  
\*各団体から一括してお申し込みも OK です。  
\*ご夫妻の場合: 「夫妻」とご明記ください。  
定員は 150 名です。お申し込みはお早めに。

【お申込み〆切】5月9日(月)又はお申込みが 150 人に達した時。  
お問合せ こびき(048-866-1613 e-mail: kovik@mbe.nifty.com)  
発起人 加藤九祚 前田耕作

大野 遼 古曳正夫 高野直明 長澤法隆 二宮洋太郎  
野口信彦 松田徳太郎 (アイウエオ順)  
後援 日本・ウズベキスタン協会

## 被災地に響け、ヒマラヤ、モンゴル、シルクロードの音色

8月12日(金) 愛川町文化会館で、ミュージシャンを被災地に送るためのチャリティコンサート計画

私は、作曲家でもあるクオリティの高い仲間の演奏者と近く被災地を訪ねた上で、言葉にならない被災地の現状や復興への希望、アジアからのメッセージを込めた曲づくりを依頼し、愛川町や日本橋での夏のチャリティコンサートで発表し、秋以降、被災地の福島、宮城のホール事業企画担当者と連携した被災地や避難先での慰問音楽キャラバンを実施したいと考えている。今回、宮城、福島の事業関係者 4 人と事業の展望について意見を交換してきたが、避難所での演奏は慎重に考え、「屋内避難」で、コンサート会場に足を運べないお宅や体の不自由な方など、演奏への希望や条件を把握しながら、現地のホール職員を通じた計画を立てたい。皆様のご理解、ご支援を心よりお願いします。

## 国会の議論は東京を離れて、「現地」で、被災地を巡回しながらやるべきだ。

大野 遼

私が 4 月 8 日訪れた福島県南相馬市の女子高校生の詩がメールで転送されてきました。インド音楽シタール演奏者伊藤公郎さんの妻美郷さんが発信している「Anjali Indian Music」情報の一つとして。タイトルは「真実」。読んでください。この中に「被災者を見捨てた国を」とあります。「助けて」という悲鳴があります。「ドンカン」な国のリーダーには届かないでしょう。これ以上のコメントは控えます。

真実	死を覚悟してるんです じわじわと死を感じてるんです	彼らの贅沢をやめて 被災者を生きさせて下さい	いなくなるかわからないです 今隣で笑ってる人が 急にいなくなることを 考えてみてください
助けてください 福島県南相馬市の 女子高校生です	もし助かったとしても この先放射能の恐怖と 隣り合せなんです	命令ばかりしないで、 安全な場所から見てないで、 現地で身体をはって助けてくだ さい	そしてその人を 今よりもっと大切にして下さい 今、青春時代をすごす 学校が遺体安置所になってます 体育や部活をやった 体育館にはもう二度と 動かない人達が横たわってます
わたしは友達を津波で なくしました 私の友達は 両親をなくしました 私の無二の大親友は 南相馬でガソリンが ないため避難できずにいます	政治家も国家も マスコミも専門家も 原発上層部も全てが敵です 嘘つきです	私達は・・・見捨てられました おそらく福島は隔離されます  完全に見捨てられます 国に殺されます	どうしたら真実を 一人でも多くの人に 伝えられるのか・・・ 一人でも見て貰えれば幸いです 考えた末、勝手ながら この場をお借りしました ごめんなさい、そして ありがとうございます
電話やメールでしか 励ますことしかできません	テレビでは原発のことが 放送されなくなりつつあります	私達、被災地の人間は この先ずっと 被災者を見捨てた国を、 許さないし恨み続けます	
親友は今も放射能の恐怖と 戦ってます	同じ津波の映像や マスコミの心ない インタビュー 口先だけの哀悼の意 被災を『天罰』と言った政治家	これを見てくれた人に 伝えたいです	
だけでもう、諦めてました まだ 16 なのに	政治家はお給料でも 貯金でも叩いて助けて下さい	いつ自分の大切な人が	

## 急いでエネルギー政策の見直しを！

大野 遼

東電も政府も、原発推進派の学者たちは、原発事故を踏まえたエネルギー政策の見直しの議論を進めようとなない。「原因」の見直しではなく、「結果」に伴う電力需要の見直し、計画節電やパチンコ店や自動販売機を槍玉に挙げるだけだ。世の中は、往々にして「原因」の議論を回避するものようだ。

週刊朝日 2011 年 04 月 29 日号は、人類史上最悪の「チェルノブイリ」と同じレベル 7 として、歴史に刻まれることになった福島第一原子力発電所を、東京電力がどのように社内で受け止めていたかについて、「東京電力三十年史」(1987 年刊行)の記録をもとに、紹介している。福島第一原子力発電所のある、福島県双葉町、大熊町の標高 35 メートルの断崖に設置したことに「直接海外に向かっ

て防波堤を突き出して港湾をつくり、冷却水の取水と重量物の荷揚げに備える構想は、当時、発電所建設地点としては世界にも例をみないものであった。これをあえて断行したのは、当社(東電)の先見性と決断によるもので、この方面の権威者の指導のもとに、設計はもとより施工方法に至るまで、あらゆる面にわたり研究を重ねてきた当社土木技術陣の努力の成果「荒れ狂う大波が押し寄せる地に、原発を建てることへの疑問は一切ない」としていることや、米国のスリーマイル島原子力発電所での事故(1979 年 3 月)「旧ソ連チェルノブイリ原発原子炉破損事故」(1986 年 4 月)についても「炉型の違い」「ありえない事故」と一蹴していると指摘、「東電に新たな社史を編むような未来」があるかどうかと厳しく批判している。



各国の世論調査機関が加盟する「WIN ギャラップ・インターナショナル」(本部=スイス・チューリヒ)が3月21日から4月10日までアジアや欧州、北南米、アフリカなどの3万4千人以上を対象に調べた結果、福島原発事故以降、原子力エネルギーを支持する人の割合は57%から49%へと低下し過半数を割った。他方、反対派は32%から43%へと上昇しているという。「91%が日本での震災を知っており、81%が福島での放射能漏れについて聞いたことがあると回答。18%が日々インターネットで情報収集・・・原発がある国だと、日本では原発反対が28%から47%に増え、原発賛成は62%から39%に激減。カナダやオランダなどとともに対立と賛成が逆転した。中国やロシアは原発賛成が多数派だが、いずれも賛成が10%以上減った。震災前にすでに原発反対が賛成を上回っていたベルギーやドイツ、スイス、ブラジルでは、その差がさらに広がった」

(<http://www.asahi.com/international/update/0420/TKY201104200520.html>) という現実を踏まえた議論が希薄だ。

東電も国会のリーダーも原発推進派の仲間である中で、民間企業の経営陣の中で、ソフトバンクの孫正義社長の被災地の復興を視野に入れた「新エネルギー財団構想」が、エネルギー政策見直しの議論のひとつとして注目されている。

ジャーナリストの上杉隆氏が紹介しているところによれば、孫氏は、震災支援金100億円、ソフトバンクからの10億円とは別に、さらに10億円で「自然エネルギー発電のための政策提言を行う財団」を設立。「原発事故で多くの国民が不安を抱いている。安心、安全な自然エネルギーを日本にもっと増やせるように、世界の科学者100人くらいの英知を集め」という。さらに「東日本ソーラーベルト構想」を提案、津波を受けた農地や壊滅した工場地帯の回復に自然エネルギー施設を建設して復興を目指すこと掲げた。これに福島原発三号炉の設計者上原春男・元佐賀大学学長も「私の発明した海洋温度差発電、温泉水発電も活用できるかもしれない。私自身もまた別の構想を持っている。アイデアを出し合っていくのはいいことだ」と賛同し、話し合いが行われたと報道している。この二人の会談をつないだのは、民主党の中で以前から自然エネルギーの問題に取り組んできた原口一博氏だという。この動きは大変評価される。国のリーダーが全員「ドンカン」だということでもなさそうだ。地震と津波、そして原発被災の三重苦に耐える人々の心につながる復興事業をスピードアップするためには、国会議員が被災地で国会を開会すること、暮らしと産業に大打撃を与え、世界を不安に陥れた「原因」である原発に代わるエネルギー政策の見直しの議論を活性化することが今必要だ。

## 「トルクメニスタン日本語スピーチ大会」

3月28日にトルクメニスタン国立アザディ世界言語大学で、第2回「日本語スピーチ大会」を行いました。日本大使館やトルクメニスタンにある日本企業(伊藤忠、コマツ、双日様)の協賛により実施しました。

学年ごとに予選を行い8人が選ばれ、連日特訓をして大会に臨みました。結果は、1位3年男子(テーマ「今ある自分」)、2位4年女子(「Together we are the world」)、3位2年女子(「父の思い出」)、特別賞4年女子(「本当に強い人たち」)でした。1位になった学生は2009年に1年間日本に留学した経験があるので当然といえば当然ですが、発表内容が、特別なことを言うのではなく、普通の幸せを有り難いと思えることを発表力で訴えたところが入賞の要因です。2年生で上級者に混ざって入賞できたことは素晴らしいことであり、ほかの学生にもいい影響を与えたと思います。日本大使館や日本企業の方々による審査員6名を唸らせました。

スピーチをメインに、作文・寸劇・書道・ペン習字大会も同時開催しました。作文・書道・ペン習字は事前審査済みで、当日舞台上



国立アザディ世界言語大学 日本語教師 森崎律子  
作品を披露しました。スピーチ大会の緊張した中で、寸劇は気持ちをほぐしてくれ、会場が沸きあがりました。1年生による「大きな蕪」「桃太郎」、2年生による「笠地蔵」です。1年生にとってこの大会は太刀打ちできる場面がないので、寸劇を猛練習し、衣装を劇場で借りてくると言う意欲満々の姿勢でした。それを反映したのか、

結果は1年生の「大きな蕪」が最優秀でした。書道もまだまだ練習すればもっと上手になる素質のある学生がいることが分かりました。

続いて、双日国際交流財団から電子辞書の贈呈式も行いました。当日の一部始終はテレビで放送され、日本語学科の活動が評価されると同時に、トルクメニスタンでは日本企業が少ない中、このように知らされたことは意義がありました。

この大会以降、学生の学習意欲が高まり、より積極的になりました。(暗誦して発表する)スピーチは上手にできても、頭で考えた自分の意見を即口に出して言えるかと言ったらまだまだです。そんな弱点を解消するため、毎日所感発表をするなど日々訓練できるよう、授業内容も改善し、更に拍車をかけたいと思っています。

この大会が開催できたことに、関係者、学生、全ての人々に感謝したいと思います。

## メディア・ユーラシア情報

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。(編集部)

# ユーラシアンホットライン

## 「メルトダウン」の影響が首都圏を覆う 国会議員全員が原発を視察、被災地で国会を開催すべき

### 被災者による復興作業に労賃を支払え

大野 遼

東京電力は 5 月 12 日、これまで福島第一原発の 1 号機の「燃料の一部損傷」と説明していたが、これが核燃料のメルトダウン（炉心溶融）だったことを認めた。

「水位計を修理した結果」の発表で、通常時の燃料棒上部から 5 メートル以下の水位しかないことが分かったという。燃料棒はすでに高温で溶けて、压力容器底部に落ち、さらに格納容器のどこかに亀裂などが入って、「1 日 150 トン」の冷却水は汚染水となって、燃料棒外側の格納容器からも相当量漏出という垂れ流し状態という。本当に責任者は出て来いと言いたい心境になる。

東電は今頃何を言っている。実は、震災の翌日に「メルトダウン」は指摘されていた。経済産業省原子力安全・保安院は 3 月 12 日午後、冷却機能を喪失していた東京電力福島第 1 原発 1 号機（福島県大熊町）の周辺で、放射性物質のセシウムが検出されたと発表したからだ。セシウムは炉心のウラン燃料が核分裂してできる物質。食品や水から、ちりの吸い込みを通じて摂取され癌のリスクが高まる。保安院幹部は震災翌日の記者会見で「炉心の燃料が溶けだしているとみてよい」と炉心溶融（メルトダウン）が進んでいることを指摘していた。東日本大震災の発生で自動停止してから約 1 日で、放射性物質の拡散を抑えることができない原発事故としては最悪の事態となったという認識にあった。

しかも一ヵ月後には、原発事故の危険度は最高のレベル 7 になり、ストロンチウムも検出されている。ストロンチウムもウランの核分裂で発生する。カルシウムの同族元素なため、カルシウム摂取に役立つ食品に含まれる上、食品や水を通じて体内に摂取すると骨の中に蓄積されて、骨の癌や白血病の原因。簡単には体外には排泄できないことを考えると、放射性ストロンチウムによる内部被ばくは最も警戒が必要とされている。後から後から検査結果が発表されて大騒ぎになっていることから考えると、ストロンチウムの汚染も相当広がっていることが推測される。

それを証明したのが首都圏での原発汚染だ。原発から 300 キロ離れた神奈川県下の茶畑で基準値超えのセシウムが検出されると、下水処理場（浄水場）汚泥焼却場でもヨウ素やセシウムが検出され

さらに栃木県や茶所静岡県下でも生茶葉からセシウムが検出されている。「放射能の垂れ流し」「日本列島被爆」が続いているにもかかわらず何も対応できていない、どこか米国エネルギー省と共同で放射線汚染調査をしている文部科学省は、「安全神話」に加担し、子供たちを危険にさらす汚染規制基準緩和に踏み切った。「放射能汚染がなかった」と言える裁量の幅を広げたこと。つまり日本人をより危険にさらした決定だ。震災直後から「基準値」緩和は行なわれているが、今回の基準値を 20 倍緩和した決定は、ICRP（国際放射線防護委員会）という、マンハッタン計画（日本を被爆させた原爆製造）に携わった米国の物理学者らが立ち上げた私的核開発組織の勧告に従ったもの。将来の賠償請求に備えた基準値緩和といわれている。原発事故直後の不安に乗じて原発利権の周りで悪魔が跳梁する間、そして国会と霞ヶ関の危機状態。

既に 3 ヶ月。復興作業は遅々として進まず、仕事も暮らしの先行きも見えず、被災地の体育館でダンボールに囲まれた生活が続く。多くの支援金は被災者に分配されず、日赤に溜め込まれたまま。政府の発表や議論は「寝言」のようにならぬ。

「制御不能」の国会や東電、今になっても「安全神話」の呪縛から抜け出せず、「現状」をとりあえず原発の「中止」であって「廃棄」ではない、「原発をやめると世界の科学の発展から取り残される」などとふざけたことを言うコメンテーターや政治家。小泉政権の末期に、政財界のリーダーたちが、チャーター機をウズベキスタンとカザフスタンに飛ばし「ウラン外交」を行なったことを思い出した。原発汚染水を海に捨てたり、モンゴルに原発廃棄物の処理場をつくるような地球規模の核汚染に目をつぶり「廃棄」ではないとか「科学の発展」からとりのこされるなど、「世界最初の被爆国」を語る資格が問われる事態だ。いずれにせよ国会議員は全員防護服を着て原発被災地に現状視察に入り、津波の被災地で瓦礫の撤去にあたるべきだ。国会の開催も被災地のテントの中でやらないと復興のスピードはあがらない。私の友人も言っていたが、家も仕事も失った人々の復興と生活再建のためには「自衛隊派遣による復興作業ばかりでなく、被災住民自身による復興作業に労賃を支払うことをやるべきだ」という提案は検討されていいと思う。

**何度も提案する。国会の議論は東京を離れて、「現地」で、瓦礫撤去や復興に協力しながら、被災地を巡回しながらやるべきだ。被災地から日本が再生する道が見えてくる。**

大野 遼

元ユネスコ主席広報官で、大シルクロードプロジェクトを実施した服部英二さんの「緊急アピール」が反響を呼んでいる。既に世界の 30 名以上の学者・文化人が自分のウェブにこのアピール（仏語訳、英語訳）を掲載しており、7 月 5 日、日仏会館でシンポジウムを開催の予定です。私もこのアピールの精神に賛成です。今の地球を覆う人類史・世界史は本質的に自然に対して略奪型であり、それが紀元前 2000 年にさかのぼる気象環境の変化に基づく民族移動と差別的・略奪型国家の形成を基にしたものと思います。自然資源の管理、市場経済の、特に金融マフィア



の管理につながる方向で何とかしないと原発も止まらないように思います。原発は人類史的危機意識で考えないとまずい。国会にそんなことは期待できません。国会議員はとりあえず被災地に出向き、全員瓦礫撤去に取り組んで、真剣に日本の運命を考えた方がよい。以下アピールの全文を掲載します。

日本地球システム・倫理学会緊急アピール  
国連倫理サミットの開催と地球倫理国際日の創設を訴える  
平成 23 年 4 月 11 日

日本地球システム・倫理学会  
会長 服部英二

世界が直面する危機は経済危機でも金融危機でもなく文明の危機であり、その解決には人類の叡智の地球規模の動員が必要とされます。

このたび日本を見舞った未曾有の大震災と津波による数十万人の生命線の破壊、更にそれが惹起した福島原発事故は、日本のみならず世界に人間の生き方の変革を迫る「母なる大地」の警告にほかなりません。

「自然を統御し支配する」という 17 世紀以来の科学文明は、破局に人類を向かわせる「力の文明」であり、理性至上主義の父性原理に基づくものであります。今やこれを、命の継承を至上の価値とする母性原理に基づく「いのちの文明」へ転換すべき時です。このパラダイム転換こそが、すべての民族が、そして人間と地球が共生する「和の文明」を築く基盤であります。諸文明に通底する倫理とそれに基づく人の絆を築き、未来世代が美しい地球を享受する権利を尊重する新しい文明の創設が待たれます。

日本はついに軍事・民事の双方で原子力の犠牲国となりました。日本は国際社会に核廃絶を訴え続けてきました。当学会としては、日本は今や自国のみならず世界が、エネルギー問題においても、脱原発に舵を切ることを訴えて行く責務を負うに至ったと確信します。この責務を果たすことこそ今回の不幸を無駄にしない唯一の世界への貢献であると信じます。

人類が直面する危機の根深い原因は世界的に蔓延した倫理の欠如であります。未来世代に属すべき資源を濫用枯渇させるばかりか、永久に有毒な廃棄物及び膨大な債務を後世に残すことは倫理の根本に反します。市場原理主義による寡奪文明からの脱却が急務であります。

このような状況を前にして、本学会としては、一日も早く国連倫理サミットを開催し、「地球倫理国際日」を創設することにより、毎年倫理の重要性に思いを馳せる機会とすることを国際社会に提唱するものであります。

学会事務局 E-mail: [ntatiki@reitaku-u.ac.jp](mailto:ntatiki@reitaku-u.ac.jp)  
学会 URL : <http://gsea.jp/>

## 蒼国来栄吉さんの冤罪解雇裁判；相撲界の八百長処分で濡れ衣・「勇み足」の可能性

署名活動始まる！！皆様のご協力をお願いします。

大野遼

野球賭博に関わった力士の携帯電話捜査から相撲界を震撼させた「大相撲八百長問題」。この最終調査の段階で、このニュースレターでも紹介し、今後に期待をしてきた蒼国来さんが、震災一ヶ月後で世情が被災地に目を向けている 4 月 11 日、日本相撲協会によって、八百長に関わったとして引退勧告を示され、しかし、一切事実無根のことだと引退届を出さなかった為、同月 14 日に解雇処分を言い渡されました。勧告から中 2 日、八百長をしたと判断した理由や証拠は明示されず、「問答無用」の解雇でした。まさに晴天の霹靂。

蒼国来さんを知る友人たちの間では、「あの真面目で稽古一途な蒼国来が八百長などする必要もなく、誰よりも強い正義感



を持つ彼が、唾棄すべき八百長などするわけがない」と断言する。これまで肅々と裁判手続きが進んでおり、あのテレビで有名な北村弁護士も弁護団の主力となり、勝訴は間違いないといわれています。今回の署名活動は、弁護士だけでなく親方の意向により進められることになった。尋常ではない。蒼国来さんは、力士全員に対する調査には積極的に協力し、携帯電話も提出。何の問題もなく終わろうとしていた最後の場面で問題の引き金になった春日錦の「証言」で「八百長認定」と断定されたという。

4 月 14 日に記者会見で「いっさいやっていない。春日錦とは話したこともない」という蒼国来さんには、春日錦が特別調査委員会にどう語ったかについて一言の説明もない。「証言」だけで解雇に至ったことになる。しかも本人に

# ユーラシアンホットライン

## 被災地の文化会館職員と連携した慰問音楽キャラバン「アジアの心」プロジェクトに向けて

大野 遼

3月11日の地震、津波、原発事故発生と東日本巨大地震の被災地の現状から早急に復興するためには、政治家も国会も被災地に移転し、瓦礫の撤去にあたり、炊き出しをしながら行なうことが一番必要だと、何度も書いてきたが、現実には180度迂遠な状況にあって、怒り心頭に達する現状だ。そしてさらにイライラする発言が多くなってきた。嫌々ながら引き受けた復興大臣とはんでもない精神状態の人だった。

「何市が何県かわからない」「長幼の序。ちゃんとやれ」「最後の言葉はオフレコ。書いたらその社はおしまいだ」と宮城県知事やマスコミ各社の記者を叱責、恫喝した松本復興大臣。彼は岩手県でも「知恵を出すところは助けるがそうでないところは助けない」と喩然とさせた。被災した現地の復興をわがこととして考えない上から目線の発言は、震災から10日後にもあった。原発1号機への放水に「速やかにやらなければ処分する」と海江田万里経産相が発言し物議を醸した。既にメルトダウンがわかっていたにもかかわらず2ヵ月後に東電が炉心融解をみとめたが、当然この大臣はメルトダウンを知っていたはずだ。おそらくだからこそその恫喝だったかもしれない。この海江田経産相は、佐賀県知事に「(玄海原発)再開に国が責任を持つ」と発言した。事故によって自治体が消失、ゴーストタウンとなり、何の責任も取れていない現実を目の当たりにしながら「国が責任を持つ」とよく言えたものである。開き直ったように「原発は安全」と言い抜ける学者もいる。被爆に不安や恐怖を感じている福島県の被災者にすればほとんど人道に反する犯罪に近い発言を続ける澤田哲生・東工大教授などもテレビに出演するようになった。地震や津波そして原発事故の被災がまだ渦中といった現状にある中で、心無い政治家や御用学者の妄言、今の国会の様子、政治家への信頼の失墜は底を抜けた感があり、もう言うべき言葉もない。被災地の人々の忍耐や思いやり、復興への強い意志や覚悟、に対するにはあまりにも、よそ事としか考えていないことを示す発言のオンパレードだ。首相は、心無い復興大臣を任命したり、経産相に「原発再開」の動きをさせながら、被災地や原発事故への自らの責任を

いまいにして、とってつけたように「再生可能エネルギー」を口にし、政治的延命のためのスタンドプレーに利用しながら、国会の延長を行なった。まったく時間と税金の無駄遣いの何ものでもない。こんなことを書いている間に復興相の辞任のニュースが流れた。海江田経産相も宙に浮いた。首相が、組織をつくったり、誰かに任そうとしたりしながら、自分とはってつけのスタンドプレーで逃げている現状が混迷の本質だ。首相だけではないが、被災した大地に足を踏みしめて活路を見出そうという政治家がいけないことが不幸の源だ。

残念ながら、このままではこの国に未来はない。限りなく人類の未来への希望も、失せそうになるが、とりえず私のできる範囲内で被災者に喜んでもらえるよう活動を続けたい。

私は、6月23,24日の二日間、東京アイヌ協会名誉会長の浦川治造さん、イーグル・アフガン復興協会理事長の江藤セデカさん、ユーラシアンクラブの理事成宮勇さん、そして尺八界の頂点で活動を続ける橋本岳人山さんら10人で、宮城県南三陸町、東松島市で、慰問のミニコンサートや炊き出しの活動を行なった。今号のニュースレターの最後に記した8月12日のチャリティコンサートで発表する創作曲「2011年3月11日 絆」の曲づくりと私のつくるヒマラヤカレーとアイヌ料理「鹿肉と野菜のオハウ」を被災者に食べていただくのが目的だったが、おそらく曲づくりも、野菜の多い料理も喜んでもらえたと思う。

私たちのやったことは、これから行なう活動の手がかりをつかむためのもので、400人分の食材、調理具、その他を用意した上での、初めての活動だったが、初期の目的は達せられた。今後、チャリティコンサートや募金、その他の活動条件を整備しながら、継続して活動できるように努めたいと思っている。

今は、チャリティコンサートの成功のために最大限の力を注ぎ、秋以降の活動の準備も並行して続けるつもりだ。チャリティコンサートにもぜひ足を運んでいただき、引き続き皆様のご支援をお願いしたい。

今回の私の活動のために11人(団体)から計16万5千円のご寄付が寄せられ、食材、調理具、調味料、燃料代等に14万円ほど使用させていただきました。残金は、秋以降の活動費用に充填させていただきます。また、成宮勇さん、樋口直正さんからは、同行者、調理具、食材等の運行に必要な車両を提供していただきました。ご支援いただいた皆様へ心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回食材を私の住む神奈川県下で購入し現地に送ったり、私が軽トラで運んだりしましたが、少し工夫すれば現地で調達できることもわかりました。炊き出しでは、被災者は野菜が喜ばれる現状にあることもわかりましたので、野菜ベースのチキンカレーでもあるヒマラヤカレーは引き続き調理したいと思います。ご支援いただいた皆様へ、大野 遼 拜

今後チャリティコンサートの収益で慰問音楽キャラバンを実施の計画ですが、炊き出しも含め相当の額が見込まれ、皆様のご寄付に頼ることになります。ご寄付、食材その他ご協力いただける方は、下記の住所にお送りいただくか、下記のNPO ユーラシアンクラブ・愛川サライの口座にお振込みいただくようお願いいたします。またスタッフとして現地同行を希望される方もぜひご連絡ください。活動の成功のため皆様のご理解ご支援を心より切望します。

(寄付金の振込先、私の連絡先)

住所：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1 NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ  
口座：相愛信用組合中津支店 普通 0128190 NPO ユーラシアンクラブ 愛川サライ  
連絡先：046-285-4895 (TEL/FAX) [paf02266@nifty.ne.jp](mailto:paf02266@nifty.ne.jp) 090-3814-5322(大野遼)



<<被災地支援報告>>

## 第一回 慰問コンサートと炊き出し実施してきました

6 月 23,24 日、宮城県南三陸町、東松島市への慰問コンサートと炊き出し支援は参加者 10 人で実施されました。東京アイヌ協会・カムイミンタラは千葉県木更津市から 5 人、ユーラシアンクラブ・愛川サライ、イーグル・アフガン復興協会からは 5 人が新宿駅西口にあったん集合の後出発し北海道蓮田サービスエリアで合流の後、宮城県仙台南に向けスタートしました。

支援活動に当たっては、多くの方から食材、調理具、調味料、交通費等へのカンパをいただき、軽トラやバンを用意して万全の準備で臨みました。当日思いがけない事故等で参加を取りやめる人もでしたが、あいにくの雨の中、先を急ぎ、受け入れ先となる被災地の調整と案内に当たってくれた宮城県大河原町えぞホールの水戸所長、玉淵職員と連絡を取り合いながら 11 時過ぎ仙台南で合流できました。

その後、南三陸町を訪問。町全体を飲み込んだ津波被害の現状を目の当たりにしながら山間に丘の上の被災地を目指しました。プロ野球やサッカーチームのキャンプ地でもあった山間に設置された住宅、体育館に生活する皆さんに挨拶し、現状についてお話を伺った後、被災者と活動参加者が協力してすを並べ、即席の演奏会場を設営。橋本岳人山による演奏がスタート。尺八界最高峰の音楽を紹介、心からの拍手が湧きました。岳人山は、自らが肺気腫で再起不能と医師から宣告されながら、家族との絆で奇跡が起きて左肺が再生し、医師を驚愕させて今日に至ったことを紹介しながら、希望を捨てず一緒にがんばりましょうと語りました。

岳人山は、実は学生時代に海洋学研究に携わり、実習で三陸町の津波調査をしていました。地元には「浜に家を建てるべからず」と家訓を守る家があり、津波被災の恐ろしさを伝える伝説があり、岳人山の恩師も学界で警鐘を鳴らし続けていた人でした。記憶する南三陸町一体の海岸を視察した岳人山は、青年の時、牛乳を 8 円で買ったお店も含め、全て変わり果てた瓦礫の町に、思い去来交錯するところが大きいにあったようです。私は、「2011 年 3 月 11 日 絆」と題した曲づくりを依頼し、岳人山は了承しました。皆で演奏し、アジア最高峰のミュージシャンが即興で演奏できる、津波の現状と、慰霊、残された町の人々の希望や力につながる曲を強く要望しました。構想がまとまれば 7 月中に、8 月 12 日に参加するミュージシャンとさらに曲づくりに取り組む計画です。

南三陸町の後、被災の状況を視察しながら東松島市小野文化センターに移動しました。到着したのは夕方、公民館の調理室で早速食材の仕込みにかかりました。江藤セデカさん、イーグル・アフガン復興協会会員ノビリタ・マヤさん、成宮勇さん、橋本岳人山さんらの協力で大量の玉葱、ジャガイモ、ニンジン、キュウリ、を刻み涙を流しながら、胴鍋で 400 人分の煮込みたれを調理し、鶏肉を香辛料で炒めると、交代で生活支援に当たるスタッフさんや子どもたちがカレーの匂いに「おいしそう」と声をかけてきました。夜十時には仕込みを終え、朝 4 時からの活動を終えて就寝。翌朝早朝から、味を調え、60 キロのご飯を炊き上げました。成宮さんは野菜不足の被災者のために大量のキャベツをみじん切りにして用意しました。一方浦川治造さんも北海道産の昆布と鹿肉、大量の野菜を煮込んで「エゾ鹿オハウ(汁)」を準備、胴鍋二本を完成。文化センターは、町内スピーカーで 12 時からアイヌ料理の炊き出しがありますと広報したこともあり、12 時前から人の列ができ、急ぎテントに料理を運び、炊き出しがスタート。「2 人分」「5 人分」「6 人分」と家族の数だけ注文が続き、1 時間半で鍋はきれいになりました。岳人山は、炊き出しに訪れた皆さんに演奏を披露し拍手を浴びました。食べた人からおいしかったと声をかけられたり、キャベツを大量に持ち帰る人もあり、野菜一杯の料理が喜ばれたなと感じました。



宮城県東松島市、小野市民センター

今回はまったく初めての炊き出しで、分量、味付けそして段取りと戸惑いながらの活動でしたが、今回の試みで一つの目安がわかりました。

8 月 12 日のチャリティコンサートを成功させ、大河原町えずこホールと現地の文化施設職員の協力を得て、秋以降の慰問音楽キャラバンと炊き出し活動を継続していきたいと思ひます。私たちの活動は、太平洋岸にそって 500 キロにわたって広がる被災地への支援としては、点にもならないさやかなものですが、できれば、支援の及ぶにくい状況にある被災者への援助を心がけたいと思ひます。今後とも皆様の変わらぬ援助をお願いします。写真等を含めた活動報告は改めてお知らせいたします。

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ 理事長 大野 遼(文責)  
東京アイヌ協会 名誉会長 浦川 治造 (カムイミンタラ代表)  
イーグル・アフガン復興協会 理事長 江藤 セデカ

### 在日の留学生、社会人のウィグル人、モンゴル人も被災者支援に乗り出す

今回の東日本巨大地震では、地震発生の翌日時点で 49 カ国から支援の申し出があり、一ヵ月後には 253 の国や国際機関からのさまざまな援助が行なわれた。しかし諸外国の災害救助チームが撤退し、ボランティアも少なくなる傾向にある中で、瓦礫撤去もままならず、夏を迎え、窮地に追い込まれつつある被災者が気になります。海岸から内陸部に向かい数キロの瓦礫のベルトが 500 キロも続く被災地の復興は、個人やボランティア団体のできる力を超えているが、医療支援、避難所の子供たちの保護、不足しがちな野菜を届ける援助、プライバシーのない体育館などでの暮らしに間仕切りダンボールを届けたり、自然エネルギーでお湯やお風呂を沸かして届けたりなど工夫しながら有名無名の個人が、何とか少しでも力になればと活動が続いています。

民間ベースで、アジアの仲間と息の長い活動を続けているのは宗教法入・日本イスラーム文化センター・マシド大塚。3 月 11 日の地震発生から 6 月までに 73 回の炊き出しや生活物資の支援活動を続け、その模様を写真等でお知らせいただいている。

岩手大学のウィグル人留学生と関東近縁の留学生、社会人計 15 人のウィグル人が、6 月 5 日、岩手県盛岡市の旅館に避難している釜石市、大槌町、山田町の被災者 200 人余りの方々へ、ポロ、カワブ、サラダ料理の炊き出しとウィグル音楽、舞踊などを披露し、ウィグル人の帽子 40 個をプレゼントしました。今後継続して支援する計画です。

また東京藝術大学音楽学部の手助アブドセミ・アブドラフマンさんは、日本人の友人 3 人とウィグル人 3 人の計 6 人で、5 月 21、22 日の二日間、福島県相馬市で被害の状況を視察した後石巻市に入り、

我が家を離れがたく避難所に行かず半壊状態の自宅に暮らす被災者 70 人に自らウィグル料理を調理したほか演奏も披露し、被災者を励ました。現在も 7 月末に二日間の炊き出しとミニコンサートを計画中だ。

モンゴル国のアヨシ・バトエルデネさん(世界馬頭琴協会理事長)も、6 月だけでこれまでに 3 回、宮城県気仙沼市、石巻市、仙台市の被災者の避難先となっているお寺、小学校の体育館などを訪ね、慰問のコンサートや炊き出しに取り組んでいる。2 回目の炊き出しにはモンゴル国大使館から大使を含めて 3 人、在日モンゴル人 8 人の 11 人が参加、石巻市で、野菜スープやピロシキなどのモンゴル料理を 150 人の被災者に提供した。その費用は練馬区で実施したチャリティコンサートの収益金を充てた。バトエルデネさんは、秋以降の「アジアの心プロジェクト」にも参加いただけることになっています。

一方モンゴルでは、モンゴル航空(モンゴル・ニアット)とモンゴル国旅行協会が、これまで 3 回にわたり、被災者をモンゴル国のウランバートルや近郊のツーリストキャンプに一週間招待し、ゲルで休息したり、馬に乗ったりと気分転換してもらう活動に取り組んでいる。2 回目の活動の時は、たまたま帰国する横綱白鳳と機内で一緒になり、一週間後の帰国前日にはウランバートルで白鳳と一緒に食事をしたという。

こうした民間ベースの一つ一つの活動はささやかだが、気持ちを集め自発的、継続的な取り組みが続けば、国家、民族、宗教を超えた新しい絆につながると信じる。彼らと情報交換をしながら、私も継続的な活動を構築しようと思ひます。

### 【アルタイ通信 No 1】 日本語学校を開始しました

菅野 陽  
埼玉県出身  
文化服装学院夜間部卒業  
KANNOTEXTILE 代表



10 代の頃より海外の織物、生地、刺繍に興味を持ちアジアを中心に長期の旅行を重ねる。アパレル企業に勤務の後、世界の手工芸を尋ねる世界一周の旅に出かけその際ウズベキスタンで日本語学校運営者ガニシエル・N 氏と知り合い、2010 年 11 月より半年滞在。日本語、縫製を現地の子どもに教える。その後、2011 年 6 月からガニシエル氏の紹介により、ロシア連邦内アルタイ共和国、首都ゴルノアルタイスクに移動。現在、現地でデザイナーとして働き、また日本語学校を運営。



アルタイ式囲炉裏?



アルタイの夏



アルタイの岩絵



# ユーラシアンホットライン

## 8月のイベント終了 創作曲「2011年3月11日 絆」完成し披露 地下洞窟でつながる中央アジア、被災者支援にアジアの絆をアピール

大野 遼

8月12日、盆の入りと金曜日という最悪の日程ながら、愛川町では二回目となる「アジア・シルクロード音楽フェスティバル 中津川弁才天第2回愛川町音楽祭」が終わった。聴衆の数は300人。500席を満席にすることはできなかったが、さまざまな条件を勘案すれば、まあよし、という数字であるが、内容的には昨年にも増して最高の仕上がりがだった。コンサート終了後の募金の呼びかけにミュージシャンも募金箱を持って参加、多くの方から10万円余の募金が寄せられた。

今年は3月11日に、未曾有の地震と津波そして原発事故という人類史的価値観の転換を迫る被災を目の当たりにし、年来のアジアの音楽家の友人から、チャリティコンサートへの協力を得られることとなり、私は、これまで以上に「アジアの心」「アジアの絆」をキーワードとした音楽コンサートにしなければならぬと考えた。とはいえ、コンサートに協力してくれる日本とアジアのミュージシャンの顔ぶれが見えた時点で、ほぼその仕上がりについては想像できた。岳人山の創作曲についても大いに期待した。演奏能力だけでなく、被災地に寄せるやさしさにあふれたミュージシャンの心が曲に魂を入れると信じていたからだ。

こうして6ヶ月間ほとんど何も動いていないに等しい崩壊した政治の中、被災から復興、生活の再建に歩もうとする人に、ささやかだが、アジアの心を、時空を超えた絆を感じてもらえる曲が完成した。「2011年3月11日 絆」。フェスティバル当日二部の最後に紹介した創作曲「絆」は、厳粛な、人事を超えた自然災害とこれを受け止め、暮らしの再建と復興に歩み始めた被災者へ寄り添い、一緒にがんばろうという完成度の高いメッセージとなっている。フェスティバル会場では、涙をぬぐい、一緒に拍手する聴衆との合奏も生まれた。尺八、篠笛、パンスリといった笛の音色に、馬頭琴、カシュガルラワップ、ギターやタブラが、時に重厚な、時に軽やかでひろがりのある、希望を誘う音楽的表現に



成功した。被災地でさまざまな形で演奏できることを希望している。

私はこれまで、アジアにおける弦楽器、特に三味線を最後の姿とするアジアの音楽史を辿りながら音楽によるアジアの諸民族理解を求めてきたが、昨年と今年、私が住む神奈川県愛川町での二回のアジア・シルクロード音楽フェスティバルを通して、日本やアジアの音楽風土にとって太鼓や笛が大変重要な楽器であり、この二つを基盤に創造的で完成度の高い音楽世界を追求することが、まったく新しい、世界に通用するアジア発の音楽表現につながるの確信を持った。

昨年11月から12月にかけて、加藤九柝先生の仏教遺跡発掘二十年と米寿の挑戦を称えるウズベキスタンで開催した音楽コンサートを通して、日本とアジア最高峰の笛の演奏者、ネパールのパンチャラマ、篠笛の木村俊介、尺八の岳人山そしてタブラのサラバンラマの4人は、既にその可能性を存分に示していた。今回、8月12日、愛川町文化会館で開催した「東日本巨大地震被災者支援チャリティコンサート アジア・シルクロード音楽フェスティバル」の一部で紹介した「アイルタム幻想」(作曲パンチャラマ)、二部の最後の創作曲「2011年3月11日 絆」(作曲岳人山)は、聴衆にしっかりと受け止められた。アジアの一流の音楽家による音楽表現でアジア理解を図ろうと追求してきて15年。これまでになかった音楽世界をみる事ができた。

そして今、来年に向けて、芭蕉が切り開いた究極の言語表現と、この笛と太鼓を中心としたアジアの楽器による音楽表現を融合するという私の年来の希望は一層強くなってきた。よく語られる「伝統の創造」というのはこの方向性にあるように思う。

当面は、「絆」を携えて、被災者を訪ねるキャラバン企画を具体化し、継続的に実施できる体制をつくりたいと考えている。これまで以上に皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

### 被災地の文化会館職員と連携した慰問音楽キャラバン「アジアの心」プロジェクトに向けて

大野 遼

今後チャリティコンサートの収益で慰問音楽キャラバンを実施の計画ですが、炊き出しも含め相当の額が見込まれ、皆様のご寄付等物心両面のご支援が欠かせません。ご寄付、食材その他ご協力いただける方は、下記の住所にお送りいただくか、下記のNPO ユーラシアンクラブ・愛川サライの口座にお振込みいただくようお願いいたします。またスタッフとして現地に同行を希望される方もぜひご連絡ください。活動の成功のため皆様のご理解ご支援を心より切望します。

(寄付金の振込先、私の連絡先)

住所：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 - 1 NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ  
口座：相愛信用組合中津支店 普通 0128190 NPO ユーラシアンクラブ 愛川サライ  
連絡先：046 - 285 - 4895 (TEL/FAX) [paf02266@nifty.ne.jp](mailto:paf02266@nifty.ne.jp) 090-3814-5322(大野遼)



# ユーラシアンホットライン

## 【アジアの絆】プロジェクト 1月7,8日、宮城県で被災者慰問コンサート実施で合意

### えずこホールおよび「えずこウィンドアンサンブル」と協働し、被災地のウィンドオーケストラ、吹奏楽部と連携

私は、8月12日のチャリティコンサートを踏まえ、9月20日および10月21日と宮城県を訪ね、継続的な慰問音楽キャラバンの可能性について調整しました。その結果、宮城県大河原町のえずこホールを活動拠点とする「えずこウィンドアンサンブル」(庄司一郎会長、会員55人)と協働し、日本やアジアの最高峰のミュージシャンと連携し、さらに被災地のウィンドオーケストラ、中学校の吹奏楽部とも協力して各地で慰問音楽キャラバンを組織する方向で合意しました。

その結果、第一歩として2012年1月7,8日、都山流尺八の大師範の橋本岳人山さんと、「2011年3月11日 絆」のリハーサルに取り組み、仮設住宅で暮らす被災者と合同コンサートを実施することになりました。

愛川町で開催したアジア・シルクロード音楽フェスティバルで初演された「2011年3月11日 絆」(橋本岳人山作曲)を携えて、被災者を訪ねるキャラバン企画を具体化する計画は、9月20日の訪問で、えずこホールの水戸所長の協力で、山元町の山下中学校、仙台市太白区長町アート・インクルージョン事務局、南三陸町の平成の杜関係者に、企画の趣旨を伝え、面会をできるだけ調整していただきました。またユーラシアンクラブ・愛川サライの仲間の紹介で岩沼市の岩沼市民会館館長や石巻日日新聞社長も訪問しました。

打ち合わせでは、震災から6ヶ月、被災地の状況が変化し、特に仮設住宅の整備が進み新たな問題が生じていることや復興のための努力が各地で始まっていることを踏まえ、各地の状況に応じた活動を模索することが必要になっていることで認識が一致しました。

私は、創作曲「絆」を日本やアジアのミュージシャンだけで演奏する「慰問音楽キャラバン」ではなく、海に向き合って生きていくことを内容とした曲にふさわしい手法として、現地のウィンドウオーケストラや中学校、高等学校の吹奏楽部などの被災者との合奏を被災者に聞いてもらいたいという考えを示していました。

一緒に宮城県を訪問したユーラシアンクラブ理事の成宮勇さんとともに21日早朝から、台風接近に伴う雨模様の中、岩沼市総務課、岩沼市民会館の菅原清館長、山元町山下中学校、仙台市・長町アートインクルージョンの白木福次郎事務局長、石巻日日新聞の近江弘一社長を訪問し、面会しました。訪問に当たっては、8月12日のチ

ャリティコンサートの報告を掲載したニュースレター143号と愛川町のボランティア協力者小島省吾さんが撮影編集したコンサートDVDを持参し、一部は鑑賞したり、説明したりしながら、合奏の可能性について協議しました。

その結果、音楽キャラバンの調整等で大変お世話になっているえずこホール、岩沼市民会館、山下中学校、石巻市で、地域のウィンドウオーケストラや吹奏楽部との合奏の可能性を模索することになりました。

10月21日は、えずこウィンドアンサンブルのリーダー8人がえずこホールに顔をそろえ、私の説明を聞いていただき、話し合った結果、全員一致で慰問音楽キャラバンを進めることで合意しました。計画では、当面新春早々1月7,8日に、音づくりに挑戦するとともに、第一回目の慰問音楽キャラバンの訪問先として岩沼市にある被災者の仮設住宅集会所もしくは近くの市民会館でコンサートを開催する予定で、地元のウィンドオーケストラとも合同演奏が検討されています。今後、各地での合奏パートナーの確定、日程の調整、譜面の用意、進行プランの作成、そして実施と実務的に進める予定です。

当面、12日のフェスティバルに参加した日本やアジアの最高峰のミュージシャンのうち何人が参加できるかわかりませんが、被災地のウィンドウオーケストラや吹奏楽部とプロのミュージシャンとの合奏は、演奏する人にも被災した人々にも大変意味のある体験となるものと思います。もう少しお時間をいただきたいと思います。今後とも皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。

すでに、12日の音楽フェスティバルでも、このレター紙上でも紹介しましたが、南三陸町は、岳人山が愛媛大学海洋学部の学生の時、恩師とともに津波の調査で訪問したことがあり、「浜に住むべからず」という家訓を守り山に住む家々を回って調査したところのある思い出の土地。当時一本8円の牛乳を買って飲んだ牛乳販売店のあった場所を含めて港全体が瓦礫と化した南三陸町は、今回の創作曲「絆」の曲想の基になっています。それでも海に向き合って生きていくという強い気持ちと復興への希望が込められた曲の演奏を、南三陸町で行うことを私は強く希望しています。

## 【転載】ジャパン・イスラミック・トラス(宗教法人・日本イスラーム文化センター)

### マスジド(モスク)大塚 から

### 東日本大震災 被災者支援のご報告-95

2011年10月19日  
アッサラームアライクム ワラハマトウッラーヒ ワバラカートッフ  
いつも支援金などにご協力いただき、まことにありがとうございます。10月16日に行ないました支援物資輸送第95便についてご報告いたします。

日時：10月16日(日)12時

場所：いわき市中央台仮設住宅 中央台暮らしサポートセンター パ

オ広場 150名  
メニュー：カレーライス、野菜サラダ  
メンバー：アキールさん、レイマツさん(インド料理のクックさん) ラジャさん(いわきモスク)  
ハツワさん(愛知県から)、田川さん、内海さん  
早朝、小雨の中、田川さんの運転で大塚モスクを出発しました。午前中に雨もあがって、いわきモスクに到着、サラダを準備し、レイ

マットさんは事前に仕込んでいたカレーに具材を入れ、大きな鍋で手際よくあたためました。カレーの鍋とサラダを車に積み込み、いわきモスクのラジャさんと一緒に、仮設住宅の会場に向かいました。天気は晴れてきて、暑くて汗をかくくらいになりました。事前に湯本第二中学校の校長先生とボランティアの方々が、チラシなどで仮設住宅の方に炊き出しのことを周知してくださったので、私たちが会場のパオ広場に到着した時には、すでに多くの方が広場のテーブルに集まっていました。急いで準備して配食し、150 人分があったという間になくなりました。後から来られた 10 名分ほどが足りず、食べていただく事ができませんでした。

広場のテーブル席で食べる方が多かったのですが、カレーを持ち帰る方もいて、ちょうど良いトレイや袋がなく少し苦労されていました。

前日の NHK 朝のニュースで大塚モスクの支援活動が取り上げられたので、アキールさんに「テレビ見ましたよ！」とたくさん声がかかっていました。「とてもおいしかったです」と笑顔で声をかけてくださる方もいました。湯本第二中学校の校長先生とボランティアの方々がテーブル、イスなど会場の準備と片付けもしてくださいました。病気で動けず出てこれない方には、カレーを届けられていたようでした。ゴミの分別にはとても気を使われていました。お話を伺ったところ、いわき市中央台仮設住宅には、原発周辺から避難して来られた方と、地元いわきの方が住んでいるそうです。仮設住宅にいる方は集まりやすいけど、マンションやアパートにばらばらに移って避難生活をしている方たちが孤立している。津波被害に遭った地元いわきの方は、車も流されたので交通手段を持っていないため、移動することも大変。特に、小名浜で津波被害に遭い、自宅の 1 階が流され 2 階部分で生活しているような方は、避難の対象にもならず、食べることに不自由されている、ということでした。

支援から取り残されている方たちがいて、生活に大変な労力が必要なようです。慣れない場所で孤立している方も多いようです。マシド大塚では、今後、湯本第二中学校の校長先生たちと連携して小名浜でも支援をしていく予定です。今回、愛知県からロシア出

身のハツワさんが炊き出しに参加されました。ハツワさんは 3 月の震災の後、支援に行く決めていたそうです。ところがご自身が手術することになり、なかなか行くことができませんでした。今回はちょうど回復されたところで、仕事の日程も調整でき、やっと支援が実現できたこととても喜ばれていました。

中央台暮らしサポートセンター パオ広場 blog :  
<http://paohiroba.jugem.jp/?eid=16> 写真：田川基成

10 月 27 日(木)に行なう食料品配布にご協力をお願いします！

津波の被害にあいながら、2 階部分などに住めるために支援対象からもれている小名浜地区の被災者へ、食料品 5 点セット(砂糖、味噌、醤油、油、米)の配布を予定しています。1000 セット準備したいと思っております。みなさまからの物資や支援金のご協力をお願いいたします。なお、物資提供は、上記 5 点のうちのどれかでもかまいません。大口の場合は事前にご連絡をいただくと助かります。

#### 【支援金の振込先】

三菱東京 UFJ 銀行 大塚支店 普通 1 3 6 3 8 2 8

ジャパン イスラミック トラスト

被災した方々にアッラーの助けがありますように。

ご協力くださったみなさまにアッラーの報奨がありますように。

宗教法人 日本イスラーム文化センター

ジャパン・イスラミック・トラスト (マシド大塚)

170-0005 東京都豊島区南大塚 3-42-7

Tel: (03)3971-5631 Mobile:090-2455-6253

Fax:03-5950-6310

E-Mail: info@islam.or.jp

HP: www.islam.or.jp

すでに実施済みの協力呼びかけを含みますが、マシド大塚のパワフルな活動を知っていただくため転載させていただきました。

### 【報告】10 月 16 日、千葉県君津市で第 1 回アジア SUMO フェスタ開催

#### アジア SUMO フェスタ事務局 幹事長 パーボルド (モンゴル・ブフ:相撲・クラブ会長)

10 月 16 日、千葉県君津市にある、カムインタラで第 1 回アジア SUMO フェスタが開催された。アイヌの治造 (はるぞう) こと浦川治造さんの提唱で始まった同イベントには、日本はもちろん、在日・内モンゴル、アフガニスタンなどの 70 人以上が集まった。前夜と当日朝の暴雨で客足は鈍ったと思う。



主催者浦川さんや来賓のごあいさつの後、民族音楽のミニコンサートが行われた。内モンゴルのウルグンさんの馬頭琴、ウイグルのグリザールさんの踊り、日本人だが、モンゴル舞踊がとても上手な佐藤淳子さんの踊り



復興協会の代表江藤セデカさんの率いるアフガニスタンの留学生 5 人がステージに立ち、上手な日本語で自己紹介とあいさつをした。

競技の実演は、ロシアの格闘技サンボから始まっ

た。日本ウエルネススポーツ専門学校の田中先生の率いる学生らが華麗な技を披露。その都度拍手が起こっていた。続いて、アフガニスタンの留学生によるコシュティの実演。ルースは腰帯からつかめて、完全に倒せば負けとなる。イランなどの格闘技に共通している。最期にモンゴル・ブフクラのメンバーによるブフの実演。モンゴル国のブフと内モンゴルのブフを披露。



# ユーラシアンホットライン

震災から一年。「鎮魂」と「希望」。復興激励の炊き出しと音楽キャラバンを実施します。

今回の活動の協力ミュージシャンは、橋本岳人山（都山流尺八大師範、「2011年3月11日 絆」作曲者、パンチャラマ・サラバンラマ（ネパール国民的ミュージシャン）、アブドセミ・アブドラフマン（ウイグル・カシュガルラップ演奏者、東京芸術大学助手）、ウルグン（モンゴル馬頭琴・ホーミー演奏者）の5人。カムイミントラの浦川治造さん、イーグル・アフガン復興協会の江藤セデカさんとユーラシアンクラブの仲間、そして市民まちづくり風の会東北支部の後藤文吾さん、南三陸町の高橋七男さん、宮城県大河原町・えずこホールの水戸雅彦所長、石巻日日新聞社の近江弘一社長、ピアノ調律師遠藤信和さんらのご協力でお出でいただいた被災者の援助で実施する計画です。皆様のご理解、ご支援、ご寄附をお願いしています。

大野遼

私は一月中旬、4日間かけて、NPO 市民まちづくり風の会東北支部代表後藤文吾さんと一緒に、まもなく東日本巨大地震と津波の被災から1年を迎える南三陸町、石巻市、牡鹿半島を訪問しました。津波でメルトダウンした福島原発は多くの市町村を町ぐるみ四散させ、東日本全体を深刻な放射能汚染で被りました。津波は、太平洋沿岸の暮らしの基盤を根こそぎ瓦礫と化し、被災した方々の工夫と努力が各地で行われているものの、産業再生も雇用創出も道遠しといった現状です。

訪れた石巻港は直後の悲惨な状況からは瓦礫撤去が進んでいるようには見えましたが、岸壁に乗り上げたまま放置された船、津波に破壊され放棄された自宅や工場、海岸に山のように積み上げられた瓦礫や被災車両など、生活や経済基盤は崩壊したままで経済産業復興、雇用の創出という点で見通しのつかない暗澹たる空気に包まれていました。机上プランで付いた復興予算も問題が多く、煩雑な手続きが障害になって復興の必要な現地に出回っていないと聞いたほか、一方で復興予算を食いついて金回りのよくなった「富裕層」が仙台の夜の街で遊びほうけ、飲み屋街の酒屋は震災前の100倍の売り上げだという話まで出ました。復興支援事業への助成が打ち切られ、また雇用保険の支払期限の3月以降どうなるのか、全く予想ができないという深刻な事態が不気味な重たい印象を与えました。

石巻日日新聞社の近江弘一社長をはじめ、私が直接会い、話を聞いた人は全て、家や会社、家族や仲間を失った方ばかりで、一瞬の差で命運を分けた当時の悲しみを今も涙ながらに語っていました。石巻港を望む丘の上の日和神社に毎日通いなくなった息子に手を合せているという元遠洋航海士、娘と孫娘を亡くし、一度は日本海まで自殺行に出かけたが思いとどまったという写真家の話には涙を禁じえません。ボランティアと称して写真を撮っているのを見ると怒りが込み上げていたのが、最近では被災の体験を話すのがまぎれるようになったといいます。「生きていても傷ついている人がいっぱいいる」と語ってくれたのが石巻市内今回の慰霊と激励のコンサートの現地協力者の一人です。津波からは逃れたものの避難した山の上で低体温症で亡くなった人を見た協力者は「極地におかれた時の人間の心を見た」とも語っていました。それでも人は人、海は海。一生懸命向かい合い、寄り添おうとしている人とともに私は活動したいと考えています。

以下が3月10日から14日にかけて、仲間と一緒に実施しようという活動計画です。

<計画概要>

3月10日 私は軽トラを借りて、食材、テント、テーブル、椅子、



●復興激励コンサート実施のためご寄付をお願いします。

(寄付金の振込先、大野遼の連絡先)

◎ 住所：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津6314-1

NPOユーラシアンクラブ・愛川サライ

◎ 口座：相愛信用組合中津支店 普通 0128190

NPOユーラシアンクラブ 愛川サライ

連絡先：電話046-285-4895

Fax046-265-0167

[paf02266@nifty.ne.jp](mailto:paf02266@nifty.ne.jp) 090-3814-5322(大野遼)

コンロ、ガス、炊飯器、保温器、食材、食器、スプーン、調味料等を積んで南三陸町に向かいます。ミュージシャン5、6人を含めて、20人で行きたいと思います。自己車両を提供していただけるボランティアスタッフを募集します。ミュージシャンも分乗して、石巻の簡易宿泊所で宿泊。早朝南三陸町に向かいます；1時間半；南三陸

町での炊き出しの食材は、愛川町で事前に準備し、南三陸町では温めるだけで提供できるようにして向かいます。

南三陸町では早朝から調理、炊飯、昼からの炊き出しに間に合うように準備し、音響チェック（音響機材も愛川町から運びます）。2時からの「鎮魂・希望のコンサート」を行います。またユーラシアンクラブの仲間で、野口式整体の専門家が被災者の心と体のケアにも取り組む予定です。また鎮魂のコンサートを機会に仮設団地入居者のためにピアノを贈呈するという計画も出ています。

12時炊き出し開始（200人分；当日は合同慰霊祭などが想定され、会場のキャパも200人ということで、この人数で良いという現地協力者の意見です）。2時コンサート開始。第一部「鎮魂」。2時46分1分間の黙祷。その後第二部「希望」

コンサート終了後、石巻市の簡易宿泊所に移動します。撤収、ゴミの持ち帰りの作業をスタッフで行います。

夜は早く就寝し、早朝の活動に備えます。  
3月12日 午前10時 日和神社で津波の被害を受けた石巻港を望み、亡くなられた方へのレクイエム演奏を実施します。

移動し、早めの昼食を済ませ、12時15分から45分まで、石巻市役所4階で復興激励コンサートを開催します。

2時から、石巻市内26箇所の仮設住宅団地のうち、石巻市内の被災者でもあるボランティアの皆さんのご案内で演奏者は3班に分かれ、それぞれ数カ所の仮設住宅団地で慰霊と復興激励のコンサートに臨みます。

夕方5時半には、アイトピア通り商店街の呉服店「かめ七」で演奏者は合流し、商店街復興激励コンサートに臨みます。

これで12日のプログラムは終了。簡易宿泊所に戻り、13日の炊き出しの準備をして早めに就寝。

3月13日 早朝牡鹿半島の十八成浜・老人憩いの家に向かいます。所要時間は1時間。炊き出しの準備を行い、演奏者は鮎川浜仮設商

店で復興激励コンサート。炊き出し昼食終了後、老人の家で慰霊と復興激励コンサート。その後、最後の小浜浜仮設住宅被災者の激励コンサートで3日間の活動は終了。簡易宿泊所に戻り休息のあと翌日帰京の予定です。

とりあえずは以上のような活動の流れですが、調整の必要もあると考えています。

○今回、南三陸町を3月11日の会場としたのは、昨年6月22日、宮城県大河原町のえずこホールの水戸雅彦所長等の紹介で南三陸町に訪ねた折、実は尺八奏者橋本岳人山が青年の頃、津波の調査で訪れていた場所であることを知り、創作曲を依頼した経緯からきています。8月12日には、愛川町でのチャリティコンサートで日本やアジアの最高峰の演奏者による合奏が実現し、大きな感動を与えました。この曲を聴いて欲しいという強い気持ちからです。

○石巻市をこの機会に慰霊と復興激励の活動の場所を選んだのは、実はユーラシアンクラブの仲間で現在大阪で活動する大谷龍雄さんが石巻出身で、震災直後の被災にも関わらず壁新聞の形で新聞発行を続け、世界のジャーナリズムを感動させた石巻日日新聞の近江弘一社長と親しく、紹介を受けて面談したのがきっかけ。近江社長からは、被災地支援をきっかけに移住を選択して、復興支援やボランティアの活動を支援するため名古屋から石巻市へ住所を移転した後藤文吾さん、音楽による被災者支援を行なっている遠藤信和さんら石巻で活動する人を紹介され意気投合したのがきっかけです。復興も、支援活動も人の絆がなければできないものだとつくづく感じた次第です。

私は今後も被災地への支援活動を続けます。まず今年の第一歩として一年目の「鎮魂と激励」の炊き出しとコンサートの活動を完遂します。可能な範囲で皆様のご支援をお願いします。

鎮魂と復興激励—慰問コンサートと炊き出し 2012年3月11、12、13日 宮城県南三陸町、石巻市、牡鹿半島

<<訪問するミュージシャン>>

- 橋本岳人山（都山流尺八大師範）○ パンチャラマ（ネパールパンシリ；横笛演奏者）○ サラバンラマ（ネパールタブラ；指太鼓演奏者）
- アブドセミ・アブドラフマン（東京芸大助手 ウィグル/カシュガルラワップ演奏者）○ ウルグン（モンゴル馬頭琴・ホーミー演奏者）



橋本岳人山



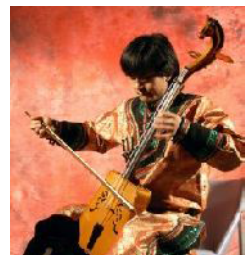
パンチャラマ



サラバンラマ



アブドセミ



ウルグン

<<スケジュール>>

3月11日 南三陸町平成の森アリーナ レクイエムコンサートと炊き出し、野口式整体ケア

3月12日 石巻・日和神社 レクイエム演奏 石巻市役所4階復興激励コンサート

音楽家とサポータースタッフが3班に分かれて慰問コンサート 1班 橋本岳人山 水押仮設団地ほか

2班 パンチャラマ兄弟 名振仮設団地ほか 3班 アブドセミ・アブドラフマン/ウルグン 垂水仮設団地ほか

アイトピア通り商店街呉服店「かめ七」復興激励コンサート

3月13日 牡鹿半島・十八成浜復興激励コンサートほか3か所で炊き出しと慰問コンサート

# ユーラシアンホットライン

## 震災から一年。「鎮魂」と「希望」。復興激励炊き出し音楽キャラバンに参加者25人

大野遼

3月10日から実施する、【震災から一年。「鎮魂」と「希望」。復興激励・炊き出し音楽キャラバン】の参加者は途中参加者も含め25人となりました。26日都内で参加スタッフのミーティングを行い、留意事項や活動の分担を行ない、活動を調整する総合マネージャーを菅野陽さんをお願いしました。

活動の全行程を通した留意事項として、被災し一年、亡くなられた方への慰霊と頑張ってくられた方々の気持ちに添って、被災者の声に耳を傾けることを確認しました。また現地における炊き出しと日本やアジアの音楽による慰問というだけでなく、時と共に「風化」が指摘される被災地の現状を知ってもらうため、自らも被災しながら被災者支援で頑張っている方を招き、報告会を兼ねたミーティングを行い、募金の訴えに答えていただくなど、私たちの活動を理解し、支援していただいた方々に現状報告を行うことを決めました。このため参加者全員がレポートを書くことも申し合わせました。

10日に現地入りし11日、炊き出しと「鎮魂」と「希望」のコンサートを実施する南三陸町は、宮城県大河原町のえずこホール水戸雅彦所長の紹介で昨年6月の慰問コンサートと炊き出しをきっかけに、橋本岳人山によって「2011年3月11日 絆」が作曲されたゆかりの場所。平成の森仮設団地で暮らす被災者に届けてきたいと思います。

12日に訪問する石巻市は、石巻市出身で現在大阪で活動する仲間大谷龍雄さんの紹介でお会いした近江弘一・石巻日々新聞社長を介してであった後藤文吾・夫紀子夫妻、遠藤信彦さん、自らも被災した高橋亮子さん、阿部美津夫さんの案内で、日和神社、石巻市役所、仮設団地6か所、商店街1か所を訪ね、鎮魂と復興激励のコンサートを行うものです。

13日に訪問する牡鹿半島は、後藤文吾さんも参加する愛知ボランティアセンターが昨年6月から毎週金土日に続けている「がれき撤去弾丸ツアー」で瓦礫がきれいに片付いた十八成浜（くぐなりはま）の仮設団地、鮎川浜の復興商店街、小浜の仮設団地の被災者を対象に行う炊き出しと復興激励コンサートです。

14日午前中には、海岸から5キロの上流に位置し、災害時の避難所にも指定されていたにもかかわらず、北上川（追波川）河口から約5kmまで津波が襲い、校庭に避難していた児童108名中70名が死亡、4名が行方不明、教職員13名中、校内にいた11名のうち9名が死亡、1名が行方不明となり、スクールバスの運転手も死亡した石巻市立大川小学校を訪ね、建立された母子像の前でレクイエムコンサートと慰霊を行います。

参加するミュージシャン、ボランティアスタッフは、民族的には、アイヌ、アフガニスタン、ネパール、ウイグル、モンゴル、フィリピンなど日本も含めて帰属するアジアの仲間、今回の活動は「アジアの絆プロジェクト」と認識しています。

今回の鎮魂と希望のツアーのため、宮崎県門川町婦人団体連絡協議会、かどがわ一本松楽部から、宮崎県の高級茶8キロを寄贈していただきました。

悲惨な大災害に向きあい、これからも取り組んでいきます。活動報告を含め、被災者代表を招き、被災地の現状を知ってもらう報告集会を検討中です。引き続き皆さんのご理解とご支援をお願いします。ご寄附は下記口座までお願いいたします。

◎ 口座：相愛信用組合中津支店 普通 0128190  
NPOユーラシアンクラブ 愛川サライ

鎮魂と復興激励—慰問コンサートと炊き出し 2012年3月11、12、13日 宮城県南三陸町、石巻市、牡鹿半島  
<<訪問するミュージシャン>>



橋本岳人山



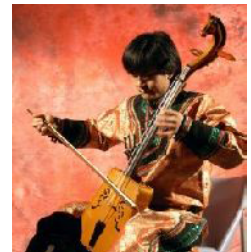
パンチャラマ



サラバンラマ



アブドセミ



ウルグン

<<スケジュール>>

3月11日 南三陸町平成の森アリーナ レクイエムコンサートと炊き出し、野口式整体ケア

3月12日 石巻・日和神社 レクイエム演奏 石巻市役所4階復興激励コンサート

音楽家とサポータースタッフが3班に分かれて慰問コンサート 1班 橋本岳人山 水押仮設団地ほか

2班 パンチャラマ兄弟 名振仮設団地ほか 3班 アブドセミ・アブドラフマン/ウルグン 垂水仮設団地ほか  
アイトピア通り商店街呉服店「かめ七」復興激励コンサート

3月13日 牡鹿半島・十八成浜復興激励コンサートほか3か所で炊き出しと慰問コンサート



# ユーラシアンホットライン

4 月 28 日 新橋で、ユーラシアンクラブ総会・東日本大地震被災地支援報告・講演会

大野 遼

3 月 10 日から 14 日まで、一周忌を迎えた東日本被災地の亡くなった方の鎮魂と被災し残された方の暮らしの再生と復興の希望を激励するため、日本とアジアの最高峰のミュージシャン 5 人による慰問のコンサートとボランティアスタッフ 17 人による炊き出しや傾聴、整体ケア提供の活動を行った。いささか過密なスケジュールで予定通りにいかなかった面もあるものの、一年間の止まった時を一緒に進めようという絆のメッセージを伝えることができた。参加したのはミュージシャンのほか、「カムイと生きる」の映画が封切られたばかりの、カムイミンタラのアイヌ浦川治造さんとその仲間、子どもや女性の自立のために支援活動を行っているイーグル・アフガン復興協会の江藤セデカさんと仲間、ユーラシアンクラブのスタッフ関係者ら 23 人が、被災者を訪ね、鎮魂と復興の希望を共有するアジアの絆のメッセージを送った。プロジェクトはこれからも続きます。

ユーラシアンクラブは 4 月 10 日、支部愛川サライの総会を開催し、4 月 28 日、下記の予定で総会を開催します。

昨年度は、人事を越えた自然の営み、地震に伴う津波そして原発のメルトダウンによる放射能汚染と、人がこれからどう生きていけるかを考えさせた一年となりました。自然との共生、民族の共生を課題として 1990 年に構想し、1993 年に立ち上げたユーラシアンクラブは、これまで組織拡充も目指さず、方向を模索してきましたが、3 年前に、組織改革と方向性を転換してから、地域拠点型活動と情報通信ネットワーク化、日本人クラブからの脱皮を掲げ、支部愛川サライでの活動展開、日本橋での基盤整備、高橋一夫さんがレーン敷いた「メディアユーラシア」の拡充、理事会の改革を実施しました。東日本大震災への対応も「アジアの絆」プロジェクトを推し進め、被災から一周忌となる 3 月 11 日を中心として 5 日間にわたる宮城県南三陸町、石巻市、牡鹿半島での日本とアジアの最高峰のミュージシャンによる慰問コンサートと炊き出し、整体ケアを含む仮設団地での活動を、被災地で地道に活動するボランティアや被災者などの協力者のご尽力をいただき実施しました。クラブを発足した時からの仲間浦川治造さん（東京アイヌ協会名誉会長、カム

イミンタラ代表）、江藤セデカさん（イーグル・アフガン復興協会理事長）、そしてモンゴル・ブフ・クラブ代表のバーボルドさんらにユーラシアンクラブの運営をリードしてもらい副理事長に就任していただいたことで、この二年間にさまざまな方向で大きく前進しました。

昨年は予定していた 3 月 17 日の総会を、直前に発生した地震に向き合い中止しました。しかし、私は一年かけて、この震災に私なりに向き合う努力を続け、現地を一か月後に訪れ、6 月に炊き出しと慰問コンサートを実施。尺八の橋本岳人山に作曲を依頼し、8 月 12 日愛川町で創作曲「2011 年 3 月 11 日 絆」の初演を行いました。時間はかかりましたが、一周忌の南三陸町で現地の被災者やボランティア、ユーラシアンクラブや浦川治造、江藤セデカ、バーボルドさんと仲間みなさんのご協力で、「鎮魂と希望のコンサート」の形で実現しました。いろいろな形で参加した仲間がそれぞれの力を発揮し、考え深い体験をすることができました。

日本橋や愛川町での活動や今後の見通しはさらに期待できる状況にあると考えています。

今の日本やアジアの中で、ユーラシアンクラブの活動がやっと日の目をみる時期が来たと考えています。

常に、場合によりいつでも一歩も二歩も後退しながら前進するという考えでいますが、今は一歩一歩前進できる段階に来たと思います。

そんな考えで、下記の通りユーラシアンクラブの総会を開催します。今回の総会は、東日本大震災から一年、最後に取り組んだ宮城県での東日本大震災慰問キャラバンの報告と、現地で継続的に活動するボランティア後藤文吾さんや被災者でもあり被災の記録写真を撮り続けている写真家阿部美津夫さんをお呼びし「被災地の今を考える」と題した講演会を行う予定です。会場は 50-60 人の広さしかありませんが、皆様のご参加をお待ちしています。どうぞおいでください。

また今年は 9 月 5 日から 12 日まで、ウズベキスタン音楽のシルクロードツアーを日本ウズベキスタン国交 20 周年の一環として実施する計画や浦川治造さんを主役とする現在全国ロードショー中の映画「カムイと生きる」のご案内もします。

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ 総会

日時 2012 年 4 月 28 日午後 2 時から

場所 東京・新橋 国際善隣協会（港区新橋 1-5-5）

会費 未定（資料代等）

以下、今年三月に行った東日本大震災一周忌慰問コンサートの一端を写真でご紹介します。私は、今回のツアーで最も心を打たれたのが、岳人山が紹介した下の詩でした。現代に生きる人に必要な心構えのようなものが強く伝わってきます。

「あとから来る者のために」

あとから来る者のために  
田畑を耕し  
種を用意しておくのだ  
山を  
川を  
海を  
きれいにしておくのだ

苦勞をし  
我慢をし  
みなそれぞれの力を傾けるのだ

あとからあとから続いてくる  
あの可愛い者たちのために  
みなそれぞれ自分にできる  
なにかをしてゆくのだ

ああ  
あとから来る者のために

愛媛県砥部町在住だった故坂村真民さんの詩

震災から一年。「鎮魂」と「希望」。復興激励炊き出し音楽キャラバンに参加者 23 人



2012年3月10日  
14日南三陸町、石巻市、牡鹿半島慰問音楽キャラバン



「2時46分」のまま止まった時計の前で、「一緒に時を前に進めましょう」と呼びかけた慰問キャラバンスタッフとミュージシャン



300 キロの物資を運んだバンと宮崎県門川町から参加した裏方を支えた河野真一さん ↓



## ● 浦川治造の映画「カムイと生きる」ロードショー 吉祥寺バウスシアター（東京）3月24日～30日

「カムイと生きる」の上映大成功。平日昼のロードショーで入場者約500人。鑑賞した人の反応も上々で「他の映画館ではやらないのか。もう一度見たい」と好評でした。映画を製作したサイクロイドは「予想を上回る入り。大成功です」と喜んでいる。今後の上映日程は下記のとおりです。ぜひ多くの方にご覧になっていただきたい。知人にご紹介よろしくお願ひします。

<<「カムイと生きる」の上映館と日程>>

【大阪】 シネ・ヌーヴォ X /5月5日～18日

【名古屋】 シネマスコーレ /6月公開予定

【東京】 オーディトリウム渋谷 /5月12日～18日

【長野】 長野松竹相生座・長野ロキシー/6月30日～7月13日

【北海道】 CINE とかちプリンス劇場 /5月公開予定

【東京】 イメージフォーラム /調整中

【北海道】 シアターキノ /6月2日～8日

【北海道】 シネマ・トラス /調整中

【三重】 伊勢進富座 /6月公開予定

## 【キルギス通信N2号】 キルギス人が自分で語る自己紹介（2）

聞き手 中西健

アニサ・ミルザベコヴァ

キルギス・タラス州出身、ビシケク在住  
キルギス民族大学卒業、日本センター修了  
キルギス公共放送協会国際部シニア専門家



### 自己紹介

はじめまして、こんにちは。アニサです。日本の名前はアキコです。私はキルギス公共放送協会の国際部のシニア専門家です。JICA プロジェクトの担当です。私はキルギス民族大学のジャーナリスト学部を卒業した後、十年間ぐらいキルギス国営放送協会のアナウンサーとして働いていました。子どもの頃から日本に興味があり、日本センターで日本語を4年間勉強しました。4年生のとき、JICA のプログラムで1ヶ月間日本に行き、テレビ局を見て回りました。丁度、サクラが咲いているときでした。それ以来、ずっと日本語を使って仕事をしています。

### 抱負

2010年に国営放送協会は公共放送協会になりました。私は今、公共放送協会でJICAのシニア・ボランティアのアシスタントをしています。公共放送になって変わったこともあれば変わっていないこともあります。残念ながら、変わらないことの方が多いと思います。職員の考え方が古いままだと思います。

大学と日本センターで得た知識を使ってこれからも働きたいと思います。日本から得た知識と経験も役立てたいです。私は日本以外に韓国と韓国語にも興味があります。日本人も韓国人も残業を丁寧によくして、将来のことをよく考える民族です。

### 東日本大震災後の日本へのメッセージ

キルギスの人が一番びっくりしたのは、普通の人が慌てないでスーパーマーケットで買い物をしている場面を見たときでした。キルギスの革命のときに起きた略奪行為は日本では全く行われなかったです。どんな国にもあると思いますが、日本ではありませんでした。日本人が侍のように頑張っているのは世界の人々への手本になりました。キルギス人と日本人は兄弟と言われています。キルギスは2度の革命があっても消えずに、また新しくなりました。明るい将来のために頑張ろうとしています。

Email: [anisa-akiko@rambler.ru](mailto:anisa-akiko@rambler.ru)

Facebook: <http://facebook.com/Asanbekova.Anisa>



# ユーラシアンホットライン

宮脇昭・横浜国大名誉教授（森林学）が提唱する『森の長城』提案を積極支持！

公園、道路、鉄道、多目的自然との共生空間・30年かけて未来につながる復興計画を提案

大野 遼

一年間にわたり向き合い、皆さんの理解と協力を得て、「アジアの絆プロジェクト」として取り組んだ東日本被災地支援の活動を報告し、「被災地の今と今後を」考える講演会を開催しました。3月10日から14日まで5日間にわたり行った南三陸町、石巻市、牡鹿半島で、日本、ネパール、ウィグル、モンゴルのミュージシャンによる「鎮魂と希望」の慰問コンサート、アイスやアフガニスタン、フィリピンそして仲間の計23人が車に分乗して現地を訪ね行った炊出し、整体、傾聴そして亡くなった方への慰霊の旅の報告書（8ページ）もこの講演会までに完成し、訪れた参加者にお渡ししました。

講演には、自らも娘さんと孫娘2人の計3人を津波で失い、絶望の淵から立ち上がり、写真家として被災した現地の記録を撮り続けている阿部美津夫さん、名古屋から石巻へがれき撤去のボランティアとして参加する過程で、残る人生を夫婦ともども復興支援にかけようと石巻市に移り住んだ建築士後藤文吾さん夫妻が来てくれました。三人は、今回の慰問ツアーの現地コーディネーターでした。

阿部さんは、「被災者で仮設住宅に住んでいるが、自分でできることは被災地の現状を写真で発信してゆくこと。さだまさしさんとのご縁で長崎で写真展を開催できた」と語りながら、東北の被災以前の美しい写真と被災後の写真も交えながら、「他人事と思わないで、まず自分が逃げるのが大事。二度と同じことが繰り返されないで欲しい」と訴えました。後藤文吾さんは、建築家として被災地の建物調査を行っていたが、家もお金もなくした人たちのために活動したいと思い、妻と二人現地に移住したと述べ、ボランティア活動や復興の現状について語りました。

私は、一年間にわたり、私なりにできることはないかと被災地に向き合い、現地を6度訪ねました。その結果、炊出しや音楽等を通して被災者に寄り添うことは必要なこととはいえ、必ずしも未来や復興につながっていないことに忸怩たる思いがあり、特に最近、瓦礫を被災地から全国各地に受け入れを要請し「処分」する動きや高台移転のみが強調されていることに違和感を感じていました。

今回報告書をまとめるに当たり、資料を整理している際に、横浜国立大学の宮脇昭名誉教授の「森の長城」設置の提案を知り、まさにこれこそ被災地と日本が再生するプロジェクトになりうると確信し、積極的に推進することにしました。

今回の東日本大地震で6度ほど福島、宮城県を尋ねました。そのうち2回は原チャリで、1回は2泊3日一睡もせず走り回りました。その結果大変印象に残り、現在まで気になっていることがあります。それは初めて現地を訪れた4月9日、福島から宮城へ国道6号線を走っていた時でした。東側の海岸に向けて広がる平地には、集落などの生活の痕跡を全て飲み込み粉碎した津波の痕跡、瓦礫が水田一面に広がっていたのに比べ、西側は、6号線を超えて、あるいは架橋の下を突き抜けた津波が瓦礫を運び込んだり、運悪く被災した

家々、車両の姿があったものの、概ね東側に比べ被災状況が軽微でした。仙台市は周辺を高速自動車道がめぐっており、仙台市を通り過ぎて南三陸町に移動し、海岸近くの東部自動車道を走っている時にもそうした印象を受けました。

横浜の山下公園は、1923年に横浜を壊滅させた関東大震災で発生したがれきで築いた震災からの復興を象徴する公園だ。震災から7年後に完成し、ここを会場に、震災から12年後、震災後の産業振興や最新技術を紹介する「復興記念横浜大博覧会」が開催された。

関東大震災で生じたがれきとなった横浜市の面積は12万坪（約40万平方メートル）に及ぶ。大量のがれきのうち6万立坪（約36万立方メートル）が、当時、外国人居留地の先に広がっていた海だった場所に埋め立てられました。

昨年後半から半年余り、遅々とした震災復興、特に瓦礫の搬出や受け入れ問題にイライラするばかりですが、場所によっては山下公園をヒントに、防波堤にもなる公園や道路など、瓦礫を活用した復興案を募集してはどうだろうかと考えました。

その大きなヒントとなったのが横浜国立大学の宮脇昭教授の「森の長城」提案です。その内容は、地震プレートに沿って、「がれき」を防潮堤のように盛り、そこに地元では昔から自然に生えていた「ぶな」などの広葉樹を植えるというものです。

震災直後に調査に入り、7年前に塩釜市のスーパーの外周に植えたマテバシイ、ウラジロガシ、シラカシ、タブノキなどが昨年の津波で建物が倒れても、海水の塩に浸ってもしっかり根を張り生きていることを確認。松や杉が根こそぎ流され防潮林の役に立たなかった今回の津波被害を教訓に、土地本来の木を混植、密植して命の森を再生しようと呼びかけている。瓦礫の山は貴重な地球資源であり、廃棄しない、焼かないを徹底して、土を混ぜながら20～30メートルのマウンドを作り、その上に木を植えて、緑の万里の長城を作ろうと提案している。

私は、昔、小学校の授業で、オランダが海面より低い国土を守るために海岸に堤防を築いているという話を怖い思いで聞いたのを思い出しました。海に囲まれた日本。特にプレートの境目に浮かぶ日本列島を考えると、オランダを上回る復興プランが必要な時期だと思えます。海岸沿いのこの瓦礫利用の森や公園、道路を組み合わせ、津波被害を防ぐ森の長城ベルトを海岸沿いに作ることは真剣に検討されるべきではないでしょうか。

今回の震災では、津波によって海岸のマツなどの針葉樹が根こそぎ流されて被害を拡大したことが被災の特徴の一つでした。宮脇教授の提案は意味のあるものと思います。

さらに原発問題が今回の震災被害のもう一つの課題ですが、上記の提案をメガソーラーシステムを推進している仲間の永田真一さんにお話ししたところ、この森の長城計画にメガソーラー設置と合わ

せて推進すれば、未来につながる復興計画になることを一層確信しました。太平洋に面した「森の長城」の東側斜面にソーラーパネルを設置することでエネルギー確保にもつながります。

原発のメルトダウンによって生じたストロンチウムやセシウムのいわゆる「半減期」は 30 年と言われています。これは人間で言えば一世代に相当します。30 年かけて今の世代が太平洋側に「森の長城」を市民運動としてとりくみ、瓦礫を土と混ぜて防波堤を作り、その上に広葉樹の植林し、西側には道路や公共交通、公園を、東側斜面にソーラーパネルを設置する運動を広げる—これが報告会で私が提案したことです。一度宮脇昭さんをお招きした講演会を開催したいと考えています。

報告会では、メガソーラーについて永田真一さんから説明をしていただきましたが、報告会の後、早速後藤さんからは水位が上がって利用できない海岸べりの土地を有効活用したい、との意見が出さ

れ、永田さんも工業団地や大きな平地など他に利用できる土地と違いメガソーラー事業地として適切と合意、6 月にも現地を訪問話し合うことになりました。

個人でできることできないこともあると思いますが、「協働参加」等も視野に、取組みを組織することは可能と考えています。また広葉樹の植林の段階になれば市民参加の取組みもできます。

これは壮大なる夢かもしれませんが、瓦礫の受け入れや高台移転だけの議論は復興に向けた希望へ閉塞感を生じており、私は、今後もユーラシアンクラブの仲間や今回の活動を通してお会いできた方々や大谷龍雄さん、石巻日日新聞の近江弘一社長、南三陸町の高橋七男さん、高橋さんをご紹介いただいた宮城県大河原町えぞこホールの水戸雅彦所長らと相談しながら進めたいと思います。ご理解ご支援を引き続きいただけるようお願いいたします。

### ● <バイオマス産業社会ネットワーク(BIN)第 113 回研究会のご案内>

日 時：2012年5月25日(金) 18:00~20:30  
テーマ：東日本大震災被災地の復興とバイオマス利用の本格開始へ  
講演者：相川高信 (三菱UFJ リサーチ&コンサルティング)

山口勝洋 (サステナジエ株式会社、環境エネルギー普及株式会社(盛岡)、

おひさまコーポレーション(石巻)、気仙沼地域エネルギー開発株式会社)

会 場：地球環境パートナーシッププラザ

(東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学1F)

地下鉄表参道駅より徒歩5分・JR 他渋谷駅より徒歩10分

<http://www.geoc.jp/access>

参加費：BIN 会員 無料、一般 1,000 円

※東日本大震災の被災地の復興が始まるなか、バイオマスへの期待が高まっています。

※大量の被災材の利用と、今後の林業振興と連携した木質バイオマス利用、そしてエネルギー自立に向けてのバイオマスの活用に向けての取組みが始まっています。

※第 113 回研究会では、特に岩手県での被災地復興とバイオマス利

用について詳しい相川高信さんと、実際にファイナンスなどをつかった分散型エネルギー普及の取組みをされている山口勝洋さんに、木質熱利用・熱電併給の具体的な計画や、木質バイオマス材の経済的生産などについてお話いただきます。

※参加者の皆様とともに、被災地復興にどのようにバイオマス利用を活用できるかについて、活発な議論を行い、今後の取組みに役立てれば大変幸いです。

※参加をご希望される方は、下記よりお申し込みください。

<http://www.npobin.net/apply/>

△▼☆★△▼☆★△▼☆★△▼☆★△▼☆★△▼☆★

◆4月11日に開催した、バイオマス産業社会ネットワーク第 112 回研究会「国

際バイオエネルギー・パートナーシップ (GBEP) の持続可能性指標の背景と内容」

の配布資料を、サイトにアップしました。詳細は下記をご参照ください。

<http://www.npobin.net/research/>

### 【キルギス通信N 2号】 キルギス人が自分で語る自己紹介 (3)

聞き手 中西健

トゥンチトゥク・アタノフ (24 才)

キルギス・バトケン州出身

キルギス国立大学卒業

#### 【自己紹介】

私の名前はトゥンチトゥクです。キルギス国立大学を卒業して2年間が経ちます。専攻は国際関係と日本語です。今は日本語に関わる仕事を探していますが、まだ見つけていません。両親の小さいビジネスの経営を手伝っています。趣味はサッカーと乗馬です。キルギスの山岳地帯バトケン州に生まれ育ちました。牧場に住んで幼い時から馬に関心を持つようになりました。

#### 【キルギスの現状】

キルギス共和国の状況は安定していると思います。



あつという間ですが、2010年の4月7日に起こった革命からちょうど2年間が経ちました。当時の暴動の時、亡くなったキルギス人たちを記念して行事が行われました。旧バキエフ大統領政権に反対して彼の退陣を要求したキルギス人たちは、やっとの思いで独裁政権を崩壊させました。嬉しいことに、その後だんだんとキルギス人の生活水準が上がっているよう

な気がしています。時々、キルギス人とウズベク人の間の紛争が起こります。差別問題を解決しないといけ



# ユーラシアンホットライン

宮脇昭・横浜国大名誉教授（森林学）が提唱する

『森の長城』提案を積極支持！

公園、道路、鉄道、多目的自然との共生空間・30 年かけて未来につながる復興計画を提案

大野 遼

レターの前号で、宮脇昭・横浜国大名誉教授（森林学）が提唱する『森の長城』提案を市民運動レベルで真剣に取り組む値打ちのあるものとして積極支持を表明しましたが、現在進めているユーラシアンクラブの新体制移行の議論と合わせて、企画書づくりを進めています。とりあえず、素案— 東北太平洋沿岸「森の長城」積極推進プロジェクト企画（案）をご紹介します。

## 【趣意書】

自然と向き合うことを教えたのが東日本大震災である。原発依存からの脱却、がれきの積極活用による復興案として、宮脇昭・横浜国大名誉教授が提唱する「森の長城」提案を積極支持し、さらに堤防海側（東側）法面にソーラーパネルを設置し、東日本における原発に代わるリニューアブルエネルギーとして活用し、私たちの世代が 30 年かけて市民運動で、未来につながる太平洋沿岸多目的森林ベルト「森の長城」（総延長 300 ㎞、公園、道路、鉄道ほか多目的自然＝海共生空間）を整備し、海との共生を推進する。

## 【「森の長城」プロジェクトの内容】

### 1 「森の長城」とは；

横浜国大宮脇昭教授が提唱している防潮堤構想で、津波で生じた家屋や工場の建材等を「がれき」としてではなく、未来につながる貴重な資材として積極活用し、土と混ぜて高さ 20-30 メートルの堤防を作り、シイ、カシなどによる広葉樹林を植栽するという提案。

### 2 プロジェクトの意義

① 今回の東北大地震による津波被害の特色の一つは、沿岸部のマツやスギなどの針葉樹が根こそぎ流されて家や工場、人命を奪うという面で、被害を拡大したことにある。宮脇教授は、昨年 3 月 11 日の津波から 7 年前に宮城県塩釜市で市民運動で植栽した広葉樹林が、周辺の建物が被災したにもかかわらず、しっかり根を張り残されていたことを確認した上で、森林学者としての立場から「もともと山の上にあった針葉樹を海岸に植えたことが間違い。地元の樹木を植栽するべき」として構想したのが、万里の長城に例えた「森の長城」計画。地茎 6 ㎞に及び横にも広がり、がれきを広葉樹の根がしっかり抱え盤石な堤防を築き、樹木が被害を拡大しないだけでなく、高さ 20 - 30 ㎞の堤防の上の広葉樹の森が「引き波」による人命救助にも役立つと想定されている。

② 海に囲まれた日本、歴史的に巨大地震に遭遇しそのたびに大きな被害を体験し、特にプレートの継ぎ目に立地している日本列島。地震大国日本の人々が海に向き合って今後も

生きていくことを考える時、津波の被災に対して、高台移転やがれき他地域受け入れを模索し右往左往している現状は、復興への希望も持てない閉塞感を増幅しており、「森の長城」提案は、東北復興につながるプロジェクトと受け止められる。関東大震災からの復興の象徴として沿岸に横浜の震災瓦礫を埋め立てて整備された山下公園が想起される。宮脇提案は、2011 年 3 月 11 日の東日本大地震・津波被害の七年前に塩釜市で市民運動で植樹した広葉樹林帯がしっかり根を張り被災を免れたという経験に基づいている。

③ プレートのつなぎ目に存在し、動き続ける日本列島は、大地震や津波に向き合い生きていく宿命にあることが明らかであり、この点では、国土が海拔ゼロメートル以下に位置し海岸に堤防を作り国土を防衛しているオランダと同じような海に向き合う政策が必要である。

④ 地震大国日本を原発大国にした経緯を考慮するとエネルギー政策にウェイトを置いて考慮することが必要で、特に太陽や水、自然エネルギーを正視した提案が必須で、「森の長城」と「メガソーラーパネルの設置」をセットにし、広葉樹の植林という市民運動および公共施設（公園、道路、鉄道等）の設置を組み合わせれば、海に向き合い、海に向き合った市民ぐるみの復興プランとなる。そして事故を引き起こした現世代が、セシウムやストロンチウムの半減期でもある、自分の世代＝30 年のうちに、次の時代には被災につながる原因を先送りしないという点で、意味のある提案になる。

⑤ 「メガソーラープラン」は、新たに創出される地型の利用という点で、海に面した日本の自然エネルギーの導入の仕方としていくつもの意味のある提案である。

### 3 「メガソーラーパネル」設置推進の提案

「森の長城」は概ね南北方向に築かれると思うが場所によっては南向きに面する法面も存在する。真南に向く必要もないが年間受光率を上げるためには南向きが望ましい。ソーラーパネルは、「森の長城」の法面に特殊杭に固定された架台に取り付ける。地山となる瓦礫を利用した堤防の支持力によっては工法の再検討も必要になる。

今回の提案は、メガソーラー規模に発電能力は高めるが実際の 1 箇所当たりの発電規模は 50kw 未満の低圧での供給

となる。これを 20 箇所稼働させれば 1,000kw (1Mw) となる。「森の長城」の土地は国有地を含む官地となるであろうことから、法面を無償に近い形で賃借し各ブロックのソーラーに市民ファンドを立ち上げる。概ね 1,500 万円のファンドとなり、調達価格等算定委員会が考える IRR (投資回収率) 6%から再生可能エネルギー全量固定価格買い取り制度が 20 年間 42 円/kwh に確定すれば配当も可能である。低圧ソーラーはメガソーラーより設置が容易であることから推進しや

すい事業と考えられる。

「森の長城」以外に地盤沈下した石巻市他の海岸沿いの土地にもソーラー設備の設置を提案したい。

### 【プロジェクト推進の方法】 現在検討中

今後精力的に進めたいと考えています。どうぞご支援よろしくお願いします。

### ● 浦川治造の映画「カムイと生きる」ロードショー —映画館上映スケジュール6月～7月—

#### 【北海道】

シアターキノ 63・100 席 6/9～6/15

ワーナー・マイカル・シネマズ釧路 115 席 6/16～6/22

ワーナー・マイカル・シネマズ小樽 111 席 6/16～6/22

#### 【関東甲信越】

(長野) 長野相生座ロキシシー 176 席 6/30～7/13

#### 【東海】

#### <<「カムイと生きる」の上映館と日程>>

(名古屋) シネマスコーレ 51 席 6/16～6/22

(三重) 伊勢進富座 120・48 席 6/30～7/5

#### 【関西】

(京都) 京都みなみ会館 165 席 6/9～6/22

#### 【中国四国九州】

(福岡) 中州大洋映画劇場 85・60 席 7/28～8/3

(広島) 横川シネマ 128 席 7月予定

### ● <バイオマス産業社会ネットワーク(BIN)第 114 回研究会のご案内>

日 時：2012年6月23日(土) 14:00～16:00

テーマ：内外における持続可能なバイオマス利用と今後の動向(仮題)

講演者：泊 みゆき (NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長)

会 場：地球環境パートナーシッププラザ

(東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学1F)

地下鉄表参道駅より徒歩5分・JR 他渋谷駅より徒歩10分

<http://www.geoc.jp/access>

参加費：BIN 会員 無料、一般 1,000 円

※東日本大震災と復興へ向けての取り組み、再生可能エネルギー電力買取制度 (FIT)、森林・林業再生プランの開始など、激動の一年でした。※バイオマス産業社会ネットワークは、設立以来一貫して、持続可能なバイオマス利用の推進に向けて、活動を行ってきました。※直近最大の話題である、FIT 制度の課題や、内外の生態系保全、地域社会発展に結びつくバイオマス利用などについて、参加者の皆様とともに議論できれば、大変、幸いです。

※参加をご希望される方は、下記よりお申し込みください。

<http://www.npobin.net/apply/>

### 【キルギス通信】 キルギス人が自分で語る自己紹介

聞き手 中西健

(5)

#### トロンベク・ラスロフ

キルギス国立技術大学卒業 (電子工学専攻)  
エンジニア

皆さん、こんにちは！トロンベクと申します。私は37歳です。結婚しています。子供は二人です。息子と娘。私は学生の中から日本に関心があり、日本語を勉強したいと願っていました。日本センターのおかげで、そのチャンスが到来しました。四年間日本語を勉強し、日本語だけではなく日本文化や日本人の働く態度なども習いました。私の成長に影響したと思います。残念ながら、日本語を使う機会がなくて、忘れるようになってしまいました。私はキルギスに日本の会社ができれば、そこで働こうという希望を持って頑張りました。夢はかなっていませんが、それでも日本語を勉強したことを全然後悔していません。いまは



日本語が必要でなくても、日本語を勉強し続けるということ自体が目的です。いま、ドイツ語も勉強して、頭が少し混乱しています。仕事でもたくさん新しいことを勉強しなければなりません。私にとって勉強することが趣味になったと思います。

日本で起きた大震災、大変ですね。日本には大変なことが何度も起こりまし

たが、日本人は絶望しないですぐ立ち直ることが出来ました。驚きです。一方、キルギスはソ連がなくなった後に工場など何でも閉鎖してしまいました。それをした政治の職員は今も働いています。キルギスの将来性について、期待は私にとって、ないです。2回革命を経験して被害者も多いです。キルギス人として、また愛国者として残存するのも難しいと思います。人間は祖国を選ぶことが出来ません。どんな国でも祖国だったら、その愛国者になら

# ユーラシアンホットライン

## NP0ユーラシアンクラブ 新理事長に 江藤セデカさんが就任！！

### 一大野遼は退任し、活動をサポートする会長に、新理事の体制固まるー

### 日本人クラブから脱皮、ユーラシアンクラブ新時代に向けて第一歩

NPOユーラシアンクラブは、4 月に入り精力的に会合を重ね、日本橋、愛川町を拠点とし、情報通信ネットワークを拡充、日本人クラブから脱皮した新生ユーラシアンクラブを目指し、役員を改選した。新しいユーラシアンクラブの体制は下記のとおりです。また会費は年額 1 口 6,000 円でしたが、若い人を含め多くの方に参加していただくため、正会員 1 口 3,000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円で 1 口以上のご協力をお願いすることになりました。ご理解よろしくお祈いします。

新理事長 江藤 セデカ

副理事長 バーボルド

副理事長 浦川 治造

副理事長 (新) ナザファリン ミールザーハリリー

副理事長 (兼事務局長) 井出 晃憲

理事 井口 隆太郎

理事 オコネシニコフ ジミートリ

理事 成宮 勇

理事 山田 美奈

<理事 (以下新) >

理事 大塚 憲二

理事 菅野 陽

理事 斉藤 桂子

理事 永田 眞一

理事 森本 修平

理事 矢部 誠

監事 高橋 一夫

監事 (新) 田代 良子

監事 (新) 藤本 高義



新理事長の江藤セデカさんは、在日年数が母国アフガニスタン在住年数を上回るアフガニスタン人でもあります。年来の祖国の戦禍を憂い、NPOイーグル・アフガン復興協会を設立し女性や子供を中心としたアフガニスタン支

援の活動を続けてきました。7 月中旬国連大学で開催される「アフガニスタンに関する東京会合」でも重要な役割を果たしています。一方で、ユーラシアンクラブを通して諸民族の理解協力の活動に精力的に参加し、千葉県君津市のカムイミントラや愛川サライの活動、東日本被災者支援の炊出しや慰問のコンサート等に積極的に参加し、クラブの活動を支援してきました。日本人クラブの脱皮、クラブの情報通信ネットワーク化、地域拠点型活動の推進という、私が数年来行ってきた提案に積極的に協力していただきました。

私はアフガニスタンやパキスタン、イランというペルシャ

文化圏が果たしてきたアジアの文化史上の意義に鑑みさらに広い視野でアジアの中のユーラシアンクラブの活動を展開するうえで最適な人物として新理事長に推薦しました。

副理事長のバーボルドさんは、モンゴル文化基金を立ち上げ、就学条件に苦しむ子供たちを支援するために、在日のモンゴル人留学生とともに子供たちの修学資金を援助し、多くの子供たちの教育支援を行う一方、モンゴル文化を普及するため、3 年連続モンゴル相撲学生チャンピオンであった経験を生かし、モンゴル・ブフ・クラブを組織、各地でモンゴル相撲を普及する活動を進め、板橋区で始まったモンゴル文化の祭典「ハワリンバヤル」祭を組織しこれまでかかわってきています。大相撲で活躍するモンゴル人力士の最大の支援者の一人です。十数年来ユーラシアンクラブの活動に参加し、千葉県君津市のカムイミントラでは、東京アイヌ協会の浦川治造さんとともに「アジア相撲フェスタ」を立ち上げ、愛川町では「中津川モンゴルフェスティバル」を企画実施し、中華人民共和国東スニット旗から代表団を招へい、愛川町との友好都市に向けた足がかりを作っています。

私は、クラブ創設の当初から、アジアの諸民族特に少数民族や子供たちを視野に交流の絆を築くことを提案してきましたが、今後のユーラシアンクラブをリードすることを江藤セデカさんとバーボルドさんにお祈いしました。お二人とも、安定感とアイデア、行動力いずれの面からみても優れた人で、しかも仲間からの信頼を得ています。

私、前理事長大野 遼は、理事として活動の一翼を担いながら、ユーラシアンクラブを代表し、活動への助言を行う会長に就任しました。

また、3 年前から、ウズベキスタン・NORIKO 学級のガニシエル校長を仲介者として接触のあったロシア連邦アルタイ共和国の「アルタイ日本交流センター “金”」のバブラシェフ・エドワルド会長も総会に出席、今後ユーラシアンクラブを通してアルタイ共和国との文化交流を活性化することになり、バブラシェフ会長は、ユーラシアンクラブの名誉理事に就任しました。



国連大学で開催される「アフガニスタンに関する東京会合」 ニュースレターに「通信」を発信し続けてくれているインドの佐藤友美さん、マレーシアの板坂優一さん、キルギスの中西健さんを通じた情報通信ネットワークの拡充についても、「支局」「通信部」「通信員」など新体制の中で検討協議することになりました。

また副理事長バーボルドさんを中心として新クラブの活動をチーム編成する方向です。アルタイ共和国の首都ゴルノアルタイスクで日本語教室を開講している泉地俊孝さんは今後会員としてバブラシェフ会長と「アルタイ通信」をニュースレターに投稿していただけることになりました。

ユーラシアンクラブの活動の重要な要として活動してきた宮崎県門川町の河野真一さん、神戸市の小島崇文さん、東日本被災地支援で精力的な活動でご協力を頂いた宮城県石巻市の後藤文吾さんらはユーラシアンクラブの組織の再編

の一環として「支部」「支局」等の形で検討していくことになっています。共通の問題意識は、諸民族の共生、森—川—海と循環する自然の継承（自然との共生）などで共有されており、相談しながら改革していきたいと思えます。

新理事長の江藤セデカさんは、「皆さんの協力を得て新しいクラブを作っていきたい」と抱負を語り、日本国内の若い留学生にユーラシアンクラブに参加してもらうこと、当面、深いかかわりのあるペルシャ文化と日本の文化交流や東日本大地震の被災に関心や支援の気持ちの強いイランの人々に被災の状況を知ってもらうために、日本の最高峰の音楽家や自ら被災しながらカメラマンとして被災の状況を写真や動画で発信し続ける石巻市の写真家阿部美津夫さんの写真展をイランで開催する企画を提案しました。

ニュースレターの紙面づくりや運営方法についても今後相談しながら改善していきたいと考えています。

● 浦川治造の映画「カムイと生きる」ロードショー <<「カムイと生きる」の上映館と日程>>  
—映画館上映スケジュール7月～8月—

【関東甲信越】

(長野) 長野松竹相生座・長野ロキシ—

現在絶賛上映中～13 日 (金) まで。

(横浜) 横浜ニューテアトル

7 月 7 日 (土) ～20 日 (金)

上映時間：7・8 日 11：00～

※9 日以降は、劇場へお問い合わせ下さい

☆7 日 (土) は、上映後に舞台挨拶あり

☆8 日 (日) は、上映後に治造さんがお出迎え

☆9 日 (月) ～13 日 (金)・・・18：30～

☆14 日 (月) ～20 日 (金) 時間検討中

【東海】

(三重) 伊勢進富座

現在絶賛上映中～5 日 (木) まで。

上映時間：12：30～/18：40～

【中国・四国・九州】

(広島) 横川シネマ

7 月 7 日 (土) ～20 日 (金)

上映時間：・7/7～13 9：40～/17：40

7/14～20 10：20～

(福岡) 福岡中州大洋映画劇場

7 月 28 日 (土) ～8 月 3 日 (金)

上映時間：劇場へお問い合わせ下さい

アフガニスタンの自立に向け「アフガニスタンに関する東京会合」開催

—アフガニスタン市民社会代表が参加、コミットメントを宣言—

7 月 7 日、東京・渋谷の国連大学で開催された「アフガニスタンに関する東京会合 CSO(市民社会)パラレルイベント」に参加し、アフガニスタン市民社会の生の声の一端を聞きました。私はこの会合に参加し、長年にわたる戦禍で不安定な状態が続いているアフガニスタンに変化の兆しを感じることができました。会合は、2011 年 12 月に開催されたアフガニスタンに関するボン国際会議が、第二回目の国会議員選挙が行われる 2014 年をにらんで、2014 年から 2025 年までを「変革の 10 年」と位置付けて、国際社会が支援すると約束したことを受け、持続可能な開発支援の道筋をつけるため開催されたもので、8 日の本会議に先立って開催された。日本でのアフガニスタンに関する大規模な国際会議が開催されるのは 2002



年以来 10 年ぶり。

国際社会は、対テロ「軍事支援」、経済的支援を続け、日本も 2009 年から 5 年間で最大 50 億ドルの援助を約束、多くの NGO 諸団体による生活環境整備の支援が続けられています。

しかし、かねてから、長年の戦禍の中で崩壊した社会の中で肥大化したマフィアの裏社会が、アフガニスタン新政府や役人、議会、司法から社会の隅々まで汚職や腐敗、麻薬、暴力や特に女性や子供への迫害が浸透して、支援が十分な成果を上げるのを阻害していると指摘され、国際社会の支援の在り方も問題が指摘されていました。

今回の「会合」に当たっては、これまでの 10 年の間に育った 4000 団体とも言われるアフガニスタンの市民社会の代表らが 7 月 2 日にカブールで会合を開き、アフガニ